

第十五章 銀行納税ノ事ヲ明ニス

第百十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○明治十一年九月二十八日太政官第貳拾九號布告

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例第十五章税額ノ儀ハ銀行紙幣下付ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵集候條此旨布告候事

但納期ノ儀ハ一ケ年兩度ニ割合前半ケ年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限り其管轄廳ヘ可相納事

第十六章

第百十二條

○明治十六年五月五日太政官第拾四號布告

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例中左ノ通改正加除ス

第百十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ

受ケシ日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣

引換ノ準備ニ充ツヘシ

第二十二條 削除

第二十七條 但書削除

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲替手形約束手形等ノ仕拂ヲ爲スニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主ヘ返辨スヘシ

第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カニス

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲ爲シ其總益金ノ内ヨリ諸雜費并ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貨金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金ト爲シ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤モ右利益ノ計算ハ株主ヨリ分配セサル前十日以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新購紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ株主一同ヘ分配スヘシ

但懺カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルト六ヶ月以上ニ及フモハ都テ之ヲ滯貨金ト看做スヘシ

第八十條 削除

第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムルハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條 削除

第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戻シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債証書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ツルモノトス但右公債証書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ

大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス

第百十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ從事セシムヘシ

一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄日本銀行ニ納付シ營業年限内之ヲ定期預ケト爲シ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一 各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ハラズ其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘即チ半季一分二厘五毛ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與書證印ヲ受クヘシ

一 日本銀行ヨリ右消印ヲ上納シタルキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告ス可シ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直ニ其銀行ニ還付スヘシ

第十六章 第十七章ト改ム

第百十二條 第百十三條ト改ム

○明治十二年十月三日大藏省達

振出手形ノ備ハ自今左ノ通心得發行可致此旨相達候事

第一 此手形ハ一枚ノ金額百圓以上タルヘシ

第二 此手形ハ振出シタル年月日及ヒ預ケ主ノ姓名ヲ記入シ授受ノ際ハ必ス裏書ヲ要スヘシ

シ

第三 此手形ニ對シテハ利息ヲ付スヘカラス

第四 此手形ハ發行店ノ外其仕拂ヲ爲スヘカラス

但割引ハ此限ニアラス

第五 此手形ハ銀行紙幣ニ預金ノ準備ト爲スヲ得サルハ勿論金銀有高ニ算入スヘカラス
以上

◎第五章 兌換銀行券條例

○明治十七年五月二十六日太政官第拾八號布告

兌換銀行條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治十七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

第一條 兌換銀行ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スル
モノトス

第二條 日本銀行券ハ兌換銀行券發行高ニ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ

各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其
製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ

但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時
ニテモ兌換スヘシ

○明治十八年五月七日太政官第九號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンヲ請フモノアルハ日本銀行本店及ヒ支
店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スル者トス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作り之ヲ大藏卿ニ報告
スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理
官ニ於テ必要ナリトスルハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スルヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用ヲ廢キ得ルハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無
手續料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

諸會社條例終

手形并公債証書諸條例

◎第一章 爲替手形約束手形條例

○明治十五年十二月十一日太政官第五拾七號布告

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル
人ニ拂渡カシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名證明ス可シ

- 一 金額
- 二 振出ノ年月日及ヒ場所
- 三 支拂ノ期限及ヒ場所
- 四 支拂人ノ氏名
- 五 受取人ノ氏名

手形條例

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ仕拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂

フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス

可シ

第十條 定期拂ノ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替トシ資金ニ供用スルヲ

得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住

所ヲ記シ封印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所有人

ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保証

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保証セシムルヲ得
保証人ハ其保証ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載スヘシ

第十八條 振出人裏書人ノ保証人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト
相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保証人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印
スヘシ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖

モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ証書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ証書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他証據トナル可キ手續
ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保証人ヲ以
テ保証ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ
得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保証ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ

保証ヲ立ツルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂ヲ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣
習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サザル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受シ可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支配人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支配人拒ミ證書ヲ作ルヲ肯セス又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人

ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戶長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘコ非レハ償還ヲ爲スコ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ手形請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人コ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若シハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人コ對シ第九條第二十七條ノ期限コ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ケ年間償還ヲ要求フルコ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人コ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ
第四十一條 手形紛失人ハ振出人コ紛失ノ旨ヲ證シ代玉形ヲ引受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシム

ルコ得

第四十二條 手形紛失人代玉形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限コ至リ支拂人コ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルコ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人コ自ラ支拂フヘキ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂コノ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ルモノトス

第四十五條 爲替手形コ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除ク外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程コ要スル日數八里毎コ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

手形并公債證券條例

第三十五條 第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルヲ得ズ

第二章 金札引換公債條例

○明治十三年十月二十七日大政官第四拾七號布告

明治六年三月第百貳拾壹號布告金札引換公債證書發行條例改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付コシテ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス

第三條 何人コナモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札

引換公債證書ヲ交換スルヲ得ヘシ

(本條ハ十六年第四拾八號布告ヲ以テ停止ス)

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ビ之ヲ截斷ガヘ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置キ四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年

間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トサシ元金消却

ニ至ルマデ毎年五月十一月ノ兩度ニ抽渡スヘシ

但シ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前)係レ

ハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ヶ月ヲ下渡スヘキ者トス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ

時マデハ分下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ヲ交換セント欲スル者ハ其紙幣并ニ紙幣ノ高ヲ記載

シタル交換願書ヲ其地方ノ管應ニ差出スヘシ

第七條 地方管應ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管應ヨリ其受領證ヲ交付スルハ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管應ニ送達スヘシ

第十條 地方管應ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛リノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側ニ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管應ノ割印ヲ加ヘ本人ハ渡置キタル受領證ト引換ヘシ證書ヲ交付スヘシ
但シ證書交付ノ後ニ地方管應ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製

シ每翌月五日マテハ大藏省國債局ニ届ケ出ツヘシ

第十一條 公債證書ト引換ヘケル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシ翌月五日マテハ之レヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ニ送致スヘシ

第四章 證書ノ格式及ヒ賣渡願書ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ従前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ格式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點綴スヘシ

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之レヲ他人(外國人ヲ除ク)ニ賣渡シ若クハ讓渡サントスルモ其證書ヲ其地方管應ニ差出レテ繼足紙ヲ請願スヘシ
管應ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタルモ其捺印ヲ取計フヘシ

但シ利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日マテ十月一日ヨリ十一月十五日マテ證書ノ讓渡シ賣買ノ届出ヲ見合ヌヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト

引換ニシテ

第十五條 凡此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年(五月)第九拾五號布告改正新舊公債
證書發行條例第四條ヨリ第十二條マテ及ヒ右ニ關シ附來改正增補ノ各條ニ準據スヘシ
○明治十三年十一月二日大藏省甲第百貳拾三號布達

本年十月第四拾七號布告(改定)金札引換公債證書ノ内第七條第十一條中受領證申請書ノ書式
並ニ紙幣納方ノ順序及ヒ從前發行セシ金札引換公債證書引換手續等左ノ通相定候就テハ從
前發行證書ノ所有主ハ本月三十日限右ニ應據シ引換方可申出此旨布達候事

第一條 (改定)金札引換公債條例第七條地方管廳ニ於テ紙幣ト願書トヲ受取り本人ニ渡ス
ヘキ受領證ハ第一號雛形ノ通り又金札引換公債證書申請書ハ第二號雛形ノ通りシ
而シテ紙幣納出納局出張所ヘ納シ候分ハ其預リ證書ト共ニ申請書ヲ國債局ヘ送付スヘシ
且雖モ管省中出納局ヘ紙幣ヲ納メ候分ハ紙幣并ニ出納局宛ノ上納證書ト共ニ申請書ヲ國
債局ヘ送付スル事得同局ニ於テハ右紙幣ヲ出納局預リ證書ト交換ノ手續ヲ爲スヘシ
第二條 同條例第十一條公債證書ト引換ヘシカ受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ記サシムル公債

證書ノ受取書式ハ第三條雛形ノ通りシ

第三條 從前發行セシ金札引換公債證書ノ所有スルモノハ世公債證書并ニ證書ノ金高種類
枚數番記號及ヒ引換願書ノ旨ヲ記載シタル書面ト共ニ其地方管廳ヘ差出スヘシ管廳ニ於
テハ該證書ノ預リ證書ヲ本人ヘ付與シタル上該證書并ニ申請書トモ國債局ヘ送付シテ公
債證書渡方ノ請求ヲ爲スヘシ

第四條 國債局ニ於テハ右書面ニ據リ其金高ニ應ジ相當ノ割合(從前發行證書千圓券ハ五
百圓券ニ以テ又五百圓券ハ都合ニ寄リ百圓券取交セ引換ヘ渡スヘシ)ヲ以テ金高枚數ヲ
定メ其姓名管轄宿所族籍ヲ簿冊ニ登記シタル上其證書ヲ各債主ハ地方管廳ヘ送達スヘシ
第五條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類枚數番記號ヲ公債掛シ簿冊ニ
登記シ證書ノ債主ノ名面ヲ記入シ且ツ管廳ノ封印ヲ加ヘ本人ヘ最前渡シ母キタル預リ證
書ト引換ヘニ渡方ヲ爲スヘシ

第六條 從前發行ノ證書ニ對スル本年分ノ利金本年ニ至リ發行ノ分(月割ヲ以テ渡スヘキ
金利トモ)是迄ノ通り十二月一度ニ相ヒ渡シ來十四年ヨリ條例第五條ノ通り兩度ニ渡ス

ヘシ

(雛形書式ハ零ス)

◎第三章 新舊公債證書發行條例

○明治八年五月廿五日太政官第九拾五號布告

明治五壬申年マテノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ逋債ヲ改メテ政府ノ公債トレ之レヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之レヲ償却スルコ付キ政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明コス)

第一節 弘化元申辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩マテ及ヒ明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部ニ分テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 (新公債償却年度及ヒ利息ノ割合ヲ明カコス)

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申明治五十四年迄五十年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日マテノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之レヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年マテ毎年六月一日ヨリ十五日迄(國庫ヲ施ス十字ハ明治九年四月十七日太政官)十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之レヲ拂渡スヘシ(本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但シ明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂ヒ戻スニ當テハ年四分ノ利息月割ヲ以テ右抽籤法行ヒシ月マテノ分下ケ渡スヘシ

手形并公債證書諸條例

第三條 (公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書共各債主へ交付スルコトハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區別共調査シテ後チ之レヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別(新公債ナレハ四十七種ノ記號)中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達ス可シ但シ此ノ公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルコトハ勿論其債主ノ名面金高證書等ノ種類等詳細目録書ヲ添ヘテ相渡スヘシ

第二節 地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタメ證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之レヲ簿冊ニ登記シ且ツ其證書裏面へ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 (舊公債證書元金年賦並ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明カニス)

第一節 (明治九年四月十七日太政官第五拾九號ヲ以テ左ノ通り改正ス) 毎年舊公債元金年賦並ニ新公債利足下渡方ハ各地方ハ官ニテ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並ニ元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季

ノ利金表ハ五月十日マテ下半季ノ利金表及ヒ舊公債年賦金表ハ十一月十日マテニ毎年大藏省へ差出スヘシ

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所へ廻送ノ手續ヲ爲シ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲナシタル明細證書ト共ニ直チニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 (新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明カニス)

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲ爲スニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡ス可シ

右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻ス可キ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高チ部分シ東京或ハ大坂等證書ノ金額最モ多キ場所へ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及ヒ公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十人以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ

其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナル事ヲ保證スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後チ何記號證書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻ス可シト云フヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告ス可シ

第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲ爲シ公債拂方ノ官員出張シテ一時宜ニヨリテ地方官ニ委任スルヲアル可シ其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方チナシ其證書ハ拂濟ノ証ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱ハ(年賦又ハ利息拂方トモ)大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルヲアルヘシ

○明治十二年七月五日太政官第貳拾六號布告ヲ以テ左ノ通り第五節ヲ追加ス

第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過スルキハ一切之レヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レモ其受取リ難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限内ニ在ラス

但起業公債証書記名無記名モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス

第六條 (新舊公債證書受授買賣等ノ手續ヲ明コス)

第一節 (明治十三年六月七日太政官第三拾號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)

新舊公債證書共全ク所持人ノ所有物ナレハ他人(外國人ヲ除ク)ニ讓渡質入等都テ勝手タルヘシ尤モ死者又ハ失踪者遺留ノ公債證書并ニ養子ノ戶主離縁復籍スルキ其養家ニ屬スル公債證書ハ特約アルノモノ、外總テ其遺留財產ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノトス

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離縁ヨリ遺留セル證書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 證書ヲ受授及ヒ買賣スルニハ雙方示談整ヒシ上ニテ甲ノ方(譲リ主賣主チ云フ)ハ證書裏面ヘ形ノ通り(裏面離形)記名調印シテ別ニ其證書ノ種類番號金高枚數月日及ヒ乙(受クル者買人チ云フ)ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之レヲ其管廳ニ差出スヘシ

○明治十四年八月二十五日大政官第四拾壹號布告ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追加ス

但シ裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ヨリ流質トナリタル證書ヲ有スル者此ノ條例附條第三圖ノ振合コ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ捺印ヲ受クヘシ

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト届書トヲ受取り其次第ヲ承リ正シ證書裏面ヘ形ノ如ク(裏面離形)年月日ヲ記シ捺印シテ之ヲ差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊コ詳記シ大藏省ヘ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 (明治十二年七月五日大政官第貳拾六號布告ヲ以テ本節中「若シ遠隔ノ地方云々以下罰金ヲ命スヘシ」百二字ヲ削除ス)右ノ手續ニテ捺印済ノ證書ヲ甲ヨリ乙ヘ渡シタル甲乙ニ同管下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄違ナレハ其證書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ但シ利賦金拂方施行中ニ讓受ノ證書他ノ地方ヨリ増加レ來ル分ハ先ツ買主ノ届出ヲ聞届最初ノ拂方相濟シ上コテ利賦受取方追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置キタル公債簿冊ヘ其證書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日ヲ登記シ且ツ證書ヘ捺印シテ下渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ取引タル證書ヲ他人コ(外國人ヲ除ク)讓渡スルモ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 (明治十二年七月五日大政官第貳拾六號布告ヲ以テ本節中「若其送達云々違令ノ罪ニ處スヘシ」ノ四十字ヲ削去ス

新舊公債證書ヲ管轄違ヒコテ讓渡買賣等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳ヘ其證書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スルキ直チニ公債簿冊上ニ捺印スヘシ尤モ此時證書ヘ捺印ヲ爲スコ不及乙管廳コテハ右送達書ヲ得タレハ直チニ其旨ヲ甲管廳ヘ回報スヘシ尤モ甲管廳ヨリ乙管廳ヘ送達ノ封書ヲ封合コ因テ讓受買受人ヘ托シテ送達スルモ妨ケナシ且ツ大藏省ヘハ一月分翌月五日マテニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ

但シ乙ノ管廳コテハ右送達之レナキ間ハ其證書賣買スルヲ差留置クヘシ

第八節 新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ乙地方管廳ヘ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ其證書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等許記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳コテハ公證簿冊ニ登記シ證書ヘ割印シテ下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公證證書ヲ讓受ケ買受ケントスルキハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳コテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲ爲スヘシ就テハ年々元利金モ管廳ヨリ拂渡スヘシ

但シ後日本籍ヘ復歸スルキハ本人ヨリ即日管廳ヘ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳ヘ通達方并ニ本人届方等第八節ノ通タルヘシ

第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣ヘ寄留スルキハ年々元利拂及ヒ賣渡シトモ寄留地管廳ノ主務ト爲スニ付寄留セントスル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數トモ本管廳ヘ届出ヘシ本管廳コテハ寄留地管廳ヘ送達シ寄留地ノ管廳是ヲ受ケテ取扱ヲ爲ス手續ハ第七節第八節ニ照準スヘシ若シ其身他ヘ寄留スト雖モ都台ニ因テ公債證書ハ本管ヘ殘シ置

キ年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲ爲ス如キハ寄留地管廳ニテ與カルナカルヘシ然レモ所持高ノ内都合ニ因リ幾分ガ引分テ寄留先ヘ携帶スルキハ其分ヲ本管廳ヘ届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳ヘ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通タルヘシ尤モ本籍ヘ殘シタル證書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與フヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲ爲ス妨ケナカルヘシ

但シ後日本籍ヘ復歸スルキハ第九節但書ノ通りタルヘシ

第十一節 (明治十二年七月五日太政官第貳拾六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

都テ讓渡シ又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得ヘシ然レモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受ケ主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦利金及ヒ元金ハ官簿ニ記載ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ルモ亦同シ

第十二節 (明治九年四月十七日太政官第五十號布告明治十年三月二十八日第三拾四號布告明治十一年八月二十八日第貳拾貳號布告及ヒ明治十二年七月五日第貳拾六號布告ヲ以テ本節ヲ改正並ニ追補ス即テ左ノ如シ)

毎年六月一日ヨリ十五日マテニ新舊公債利息渡方并ニ十二月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スコ付キ五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

○明治十二年七月五日太政官第貳拾六號布告ヲ以テ第拾三節及ヒ第十四節ヲ追加ス

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受ル節ハ其廳主掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキキハ其實印)ヲ捺スヘシ

○明治十三年六月七日太政官第三拾號布告ヲ以テ本節ヘ左ノ通り但書ヲ追加ス

但シ記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ

第十四節 (明治十三年六月七日太政官第三拾號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ額共同合資ニシテ所有主一個ニ限り難クトモ其内主長タル者又ハ證書管保ノ責ニ任スル者等一個人ノ姓名ヲ記シ肩書ニ其責任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支配人町村)(組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニ以テ一個人ノ私有ニ非ラサルコトヲ明

ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限り代任ノ者ヘ引繼キ證書書換ニ及ハスト雖モ代換ノ譯及ヒ其肩書姓名印影ヲ管廳ヘ届出スヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ其譯并ニ名面年號月日等ヲ登記シ置クヘシ但シ是マテ銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向キハ證書書換ニ及ハス本節ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届出シ可シ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致ス可シ

第七條 (新舊公債證書引當物等ニナシタル處置ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコトアリトモ其拂戻ス可キ元金利息ハ其所持人ヘ下渡ス可シ尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持參セサルモハ(外國人ヲ除クノ外)何人ヘナリトモ相渡ス可シ

第二節 若シ又質入流込ミトナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲ爲スコ第六條第二節第三節

第四節ノ通タル可シ

第八條 (新舊公債證書共裏面並ニ引換等ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債證書讓渡買賣頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置キ證書ハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之レヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 (新舊公債證書共紛失等ノ處置ヲ明コス)

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取レシトハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取セラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但シ管廳ニテハ大藏省ヘ届出ルル管內ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後日ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ限ラズ所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ其管廳ニ訴出其管廳ヨリハ即チ大藏省ニ届出ヘキ旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即チ右ノ旨ヲ新聞紙

其他ノ手續(新聞紙ナキ地ハ町村高札場ニ掲示セシム)ヲ以テ紛失又ハ盜取アレシ月ヨリ七ヶ月間管內ヘ公布ス可シ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡ササル可シ

第四節 七ヶ月ヲ過キ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新書ヲ作ク其地方管廳ヲ通シテ之レヲ所持人ヘ交付ス可シ尤モ公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡ス可シ

但シ此ノ新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後ヲ更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入ス可シ

第十條 (新舊公債證書共焼失等ノ處置手續ヲ明カコス)

第一節 水火災ニテ紛失流焼失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立テ新公債下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流焼失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直チニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ申立ツヘシ

但シ其流焼失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管應ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但シ證書流焼失ニ付キ新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分焼切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ管應ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管應ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ニ申立書替證書ヲ得テ之レヲ下渡ヌ可シ

但シ其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 (新舊公債證書廢造等ノ處分ヲ明コス)

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故シニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲ爲ヌ可カラヌ若シ犯ヌ者アラハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命ヌ可シ

但シ新舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去リ殘餘ノ小金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ル者

トス

第三節 何人ヲ論セズ此ノ公債證書ヲ廢造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摺擬セシメ又ハ人ノ廢造スルヲ助ケ又ハ廢造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之レヲ通用シ其他似寄ノ板版殘品彫形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處ヌヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ
證書讓(買)渡裏面彫形

印 割
一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿ニ讓渡候事實正也
明治 年 月 日
何府下何郡何町何番地
甲 某 印

八年(八月)第百拾三號布告ノ通可相心得此旨布告候事
 但配當米金受來候者ハ確定相添へ來ル四月三十日限リ其管轄處へ可申出若シ右期後ニ至
 リ如何ノ事情申出候共採用不相成候此旨兼テ可相心得事

別紙

配當現米

配當現米

配當現米

千石以上	三百石
千石未満	二百八十石
九百石迄	二百六十石
八百石迄	二百四十石
七百石迄	二百二十石
六百石迄	二百石
五百石迄	百六十二石五斗
四百石迄	

四百石未満	百二十五石
三百石未満	八十七石五斗
二百石未満	五十石
百石未満	四十五石二斗二升
九十石迄	四十石四斗四升
八十石迄	三十五石六斗七升
七十石迄	三十石八斗九升
六十石迄	二十六石一斗一升
五十石迄	二十一石三斗三升
四十石迄	十六石五斗八升
三十石迄	十一石七斗八升
二十石迄	七石
十石未満	五石

五石以下

従前之通

○明治十八年三月十日大藏省第八號達

明治十二年(七月)第貳拾六號布告新舊公債證書發行條例追加第五條第五節ニ據リテ處分スヘキ諸公債證書ノ元利金其拂渡スヘキ期節ニ於テ受取方申出テサル分ハ其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向フ五箇年ヲ經過シ受取方申出テサル分並ニ該期限内ニ難受取事由ヲ申出テ則認可シタル分ハ毎年十二月末日ノ現狀ヲ以テ左ノ書式ニ倣ヒ取調翌年一月三十日限り府縣地發遣當省へ申出ツヘシ尤モ明治十二年六月以前拂渡スヘキ期節ニ受取方申出テサル分ハ右ノ布告發令ノ日ヨリ起算スヘシ

但昨十七年十二月末日ノ現狀ハ此際往復ヲ除クノ外日數三十日限り取調申出ツヘシ

右相達候事

△金祿公債ハ甲乙丙丁區別スヘシ △印ハ實際ニ就キテ配入シ其他ハ印刷スヘシ

△(何)公債證書 (元)金拂期ヨリ五箇年經 何府 利(賦)過未償還額取調表 何縣

元利金拂渡相當期節	事田	受取申出テサル金員	事故アリ受取方延期ヲ認可セシ金員
△何年何月當簽元金			
△何年何月當簽利金			
△何年何月渡賊金			
△何年何月渡利金			
、、、、、、、、、			
、、、、、、、、、			
計			

○第四章 金祿公債証書發行條例

○明治九年八月五日太政官第八號布告

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スフト爲シ以テ公債証書ヲ附與ス可シ

一 永世祿ノ者へハ

金祿元高(賞典祿アルモノハ家祿ニ合計シ元高トス)年限

- (七方圓以上) 五ヶ年分
- (七方圓未滿六萬圓以上) 五ヶ年二分五厘分
- (六方圓未滿五萬圓以上) 五ヶ年半分
- (五方圓未滿四萬圓以上) 五ヶ年七分五厘分
- (四方圓未滿三萬圓以上) 六ヶ年分
- (三方圓未滿二萬圓以上) 六ヶ年二分五厘分
- (二方圓未滿一萬圓以上) 六ヶ年半分
- (一万圓未滿七千五百圓以上) 六ヶ年七分五厘分
- (七千五百圓未滿五千圓以上) 七ヶ年分
- (五千圓未滿二千五百圓以上) 七ヶ年二分五厘分
- (二千五百圓未滿千圓以上) 七ヶ年半分

右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス

- (千圓未滿九百圓以上) 七ヶ年七分五厘分
- (九百圓未滿八百圓以上) 八ヶ年分
- (八百圓未滿七百圓以上) 八ヶ年二分五厘分
- (七百圓未滿五百圓以上) 八ヶ年半分
- (六百圓未滿五百圓以上) 八ヶ年七分五厘分
- (五百圓未滿四百五拾圓以上) 九ヶ年分
- (四百五拾圓未滿四百圓以上) 九ヶ年二分五厘
- (四百圓未滿三百五拾圓以上) 九ヶ年半分
- (三百五拾圓未滿三百圓以上) 九ヶ年七分五厘分
- (三百圓未滿貳百五拾圓以上) 十ヶ年分
- (貳百五拾圓未滿貳百圓以上) 十ヶ年二分五厘分
- (貳百圓未滿百五拾圓以上) 十ヶ年半分

(百五拾圓未滿百圓以上)

十一ヶ年分

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス

(百圓未滿七拾五圓以上)

十一ヶ年半分

(七拾五圓未滿五拾圓以上)

十二ヶ年分

(五拾圓未滿四拾圓以上)

十二ヶ年半分

(四拾圓未滿三拾圓以上)

十三ヶ年分

(三拾圓未滿貳拾五圓以上)

十三ヶ年半分

貳拾五圓未滿以下

十四ヶ年分

右一ヶ年七分ノ利子ヲ給ス

一終身祿ノ者ヘハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

一年限祿ノ者ヘハ

十年以上ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

(十年未滿八年以上)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

(八年未滿六年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

(六年未滿四年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

(四年未滿三年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

第二條 此ノ公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ

年々兩度ニ下ケ渡スヲトス

○明治十一年九月十三日太政官第貳拾六號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ利子下ケ渡シ混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月廿八日マテ十月一日ヨリ十一月廿八日マテハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ届出(圖詰ヲ施ス三字ハ明治十二年七月五日第廿六號布告ヲ以テ追加シタルモノニ係ル)ヲ見合ス可シ

第三條 家祿賞典元高ヲ附與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルキハ元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル年限左ノ如シ

一金壹萬圓 家祿賞典元高

此六ヶ年分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一ヶ年五分金三千二百五拾圓ト成ル
一金九千九百圓 家祿賞典元高

此六ヶ年七分五厘金六萬六千八百二十五圓此公債證書ノ利子一ヶ年五分金三千三百四拾一圓二拾五錢ト爲ル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓二十五錢ノ過ト成ル然ルキハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナル故ニ九拾一圓二拾五錢ヲ引去リ利子三千二百五拾圓ニ適當スル公債證書ヲ下渡スヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云凡其發行スル種類ハ左ノ如シ
五圓 拾圓 貳拾五圓 五拾圓 百圓

三百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條 前條公債證書ヲ付與スルキニ當リテハ公債證書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條 此公債證書ノ元高ハ五ヶ年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却ス可シ

第七條 此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債證書發行條例ノ通りタルコト心得可シ

○明治九年十二月十一日大政官第五拾貳號布告

家祿賞典改制ノ儀本年(八月)第百八號ヲ以テ布告候處有ノ内舊藩廳ニ於テ祿券賣買差許有之從來現場賣買致シタル家祿ノ向ニ限リ其高ノ多寡ニ不拘總テ十ヶ年分ノ金高公債證書ヲ以テ一時ニ下賜來明治十年ヨリ年一割ノ利息下渡候條右元金消却利金下渡方等ノ儀ハ金祿公債證書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

○明治十三年五月三十一日大藏省甲第七拾壹號布達

金祿公債證書ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ノ證書多分所持致居候者ハ枚數和嵩ニ不便利ノ趣ニ相聞候ニ付今般右三種ノ證書ニ限り所持高總メテ五百圓ニ滿ツル分ハ五百圓證書ト交換差許候條志願ノ者ハ明細書へ本證書相添へ管轄廳へ可願出最モ手數料トシ五百圓證書一枚ニ付金拾壹錢宛上納可致此旨布達候事

但本文布達候ニ付テハ管轄廳ニ於テ取扱方ハ明治九年(七月)管省甲第拾五號達ノ通可相心得候事

○明治十三年九月廿五日大藏省乙第三拾壹號達

金祿公債利子渡ノ季節ニ臨ミ(利子渡前月へノ越高表届子後)本年甲第七拾壹號布達ニ依リ五拾圓以下ノ證書五百圓證書ト交換ノ儀出願ノ分ハ該季ノ利札所有者ニ於テ切斷爲致候上交換可申出此旨相達候事

但シ該利金ハ切斷ノ利札ト引替可相渡儀ト可心得事

○明治十二年一月二十九日司法省丁第六號達

公債證書利子下渡期限中讓渡約定ノ儀別紙ノ通り太政官へ相伺候處朱書ノ通り御裁令有之

候條爲心得此旨相達候事

別紙

太政官へ伺(明治十一年十二月十三日)

本年第貳拾六號布告公債證書讓渡見合期限中甲乙ノ間當時公ケノ手續ヲ爲ス能ハサルヲ以テ追テ其手續ヲ爲スヘキノ約定ニテ該證書ニ讓渡證書ヲ添へ交付セシ者ハ固ヨリ其効力ヲ有スヘキト存候抑モ該布告ノ某月ヨリ某月迄見合スヘシトノ趣旨ハ現ニ讓渡買賣等致候テハ利子下渡ノ際ニ在リ錯雜ヲ生スヘキ恐レアルコト付唯々其手續ヲ見合スヘシトノ旨意ナラシ殊ニ本年第貳拾五號公布ヲ以テ買賣等ノ禁ヲ解カレタル以上ハ右甲乙ノ如キ契約ヲ禁セラレタルモノニ無之ヲハ疑テ容レサルモノト相考候ヘル爲念一應相伺置度候條至急裁可ヲ仰ク

朱書御指令(明治十二年一月十七日)

伺之通

◎第五章 起業公債証書發行條例

○明治十一年四月三十日太政官第七號布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賈ヲ盛ニスル爲メ新メ壹千貳百五十拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿へ御委任相成候條此旨布告候事

但シ詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○明治十一年五月一日大藏省甲第拾三號布達

今般内國債募集ノ儀ニ付キ本年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例別冊ノ通相定メ施行セシメ候條此旨布達候

此公債ハ明治十一年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ基ツキ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所コシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ消却スルコ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條(公債證書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五十拾萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二

箇年間据置キ三ヶ年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三ヶ年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)每

年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲クル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シ其利息ハ

(第二條第二節ノ但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄每

年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ

紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但シ明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五

日以前ニ係ルハ前月迄テノ分十六日以後ニ係レハ半ヶ月分下渡スヘキモノトス)ヲ以

テ右抽籤法ヲ行ヒシ時迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書面ノ金高ヲ五百圓百圓五拾圓ノ三種ニ區別シ利足ノ小札付キトス

但シ本文ノ利札ハ毎半年利息拂ノキニ其渡方ヲ取扱フ銀行等コテ切り取り引換ニ其金

額ヲ得ヘキモノトス

第二條 (公債證書授受買賣等ノヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ第六條ニ掲クル記名ニ變更スル分ヲ除キ所有主ノ名ヲ記サス故ニ

書換又ハ管應ノ檢印ヲ受クル等ノ手數ナシテ授與賣買(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意
タルヘシ

但質入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス

第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行並ニ三井銀行ヘ委任シテ
取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ
件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及其取引中間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フ可シ
第二節 募リコ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マ
シメ其後ハ第一第二第三ト割合ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等
ヨリ廣告ス可シ

但シ(明治十一年七月四日大藏省甲第貳拾三號布達ヲ以テ但書左之通改正ス)

但シ第二割拂マテノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡ス可
シ

第三節 右四度ノ内手附金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取ト

引換ニ證假券ヲ與ヘ第二割ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込済ミ
至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付ス可シ

但シ公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之レヲ交付ス可シ

第四節 (明治十一年七月四日大藏省甲第貳拾三號布達ヲ以テ第一節但書ノ割註「拂込十五
日云々」ノ四十字ヲ移シテ本節「月割」ノ下ニ插入ス)

手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其
高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割拂込十五日以前ニ係ルハ半ケ月分十六日以後ニ係レ
ハ翌月ノ分コ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡ス可シ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルコ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ニ更ニ第一
割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ
歸セシメテ返與セサルヘレ

第六節 出金未タ皆済ニ至ラズ此公債證書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第

一割拂ヨリ交付シタル假證券ノ授受賣買貸入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤モ授受賣買ノ節ハ其證券ノ裏面ニ拂渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且ツ調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルモ本五節ノ通タル可シ

第七節 若シ申込ノ出金高募集ス可キ見込高ヨリ超過スルモハ銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアル可シ

第四條 (抽籤ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 毎年抽籤ニ以テ此公債ノ拂戻ヲ定ムルハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ヲテ此公債證書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號番號ヲ公定レ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 (證書ノ毀損紛失盜難流失燒失等ノ心得方ヲ示ス)

(圖號ヲ示ス七字ハ明治十一年七月四日大藏省甲第廿三號布達ヲ以テ追加セラレタル者ニ係ル)

第一節 此公債證書ハ自然折付或ハ少々ノ損等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク真正ノ證書タルヲ保證スヘキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲ス可シ尤モ過失ニテ此公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後チ之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該証書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ真正ノ公債證書ニ相違ナシト見認ムル分ハ引換ヲ爲スヘシ

但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

○明治十一年七月四日大藏省甲第貳拾三號布達ヲ以テ左ノ通第二節及ヒ第三節ヲ追加ス

第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流燒失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシモノノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置キ償却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サズ全ク消滅ヒシニ相違ナキニ於テハ該證

書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之レヲ拂渡スヘシ

第三節 前事届出ノ後テ該證書顯出シテ而シテ未ダ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スヲ得ヘシ

但第二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フヲアルヘシ

第六條 (記名公債證書ニ變改スル手續并ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ授受買賣等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名證書ト爲スヲ得ヘシ其變改ノ手續并ニ規則等ハ左ノ如シ

第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ラス又證書本紙ニ記名スルニ非ラスシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ

取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所并ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取り之ヲ其本人ニ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名シタル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ニ送附シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニ於テハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ捺印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スヘシ

但一旦無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ證書並ニ記名紙ヲ受取り成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨリ受取り置クモ適宜タルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受買賣シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜竊及ヒ流失等ノ虞ハ明治八年(五月)太政官第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第六條第七條第八條第九條第十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債證書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並ニ不用ノ廉々左ノ如シ

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ内ニ「新舊公債證書共」並ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債證書」ト改ム

同第六條第一節但書ノ其都度大藏省へ届出可シ」ヲ「置ク可シ」ニ改ム

同條第二節ニ「證書裏面へ形ノ通り」(裏面雛形)及ヒ同條第三節ノ「證書裏面へ形ノ如ク」(裏面雛形)ニハ都テ「記名紙へ末ニ附スル雛形ノ通り」ト改ム同條第三節ノ「大藏省へハ云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節並ニ第七節第八節ノ「證書へ割印」ハ都テ「記名紙へ割印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省へハ一月分翌月五日迄」ニ云々」ノ二十七字ハ不用同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人へ(外國人ヲ除クノ外)相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註ニ「十一」字ヲ「此公債證書記名繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘格」ニ改メ「證書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム

同第九條第一節ノ證書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 證書贗造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債證書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ贗造セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知りテ通用シ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ改正スヘシ

第二節 右增補改正等アルキハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五日

大藏省

◎第六章 金札引換無記名公債証書條例

○明治十六年十二月廿八日太政官第四拾八號布告

金札引換無記名公債証書條例左之通制定シ明治十二年（十月）第四拾七號布告金札引換公債証書條例第三條ヲ停止ス

第一條 金札引換無記名公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金其

銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス

此公債証書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス

第二條 此公債証書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨意ニ之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財

政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコアルヘシ

第三條 此公債証書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債証書ハ証書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此証書ヲ引受ケンコト望

ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店へ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ

但償還ノ金高ハ抽籤ノ月ヨリ少クモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ期ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取リ之ヲ引換ニ拂渡ス

ヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人コテ此公債證書ヲ多額所持スル者十名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡ス可キ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

亡失ノ證書ヲ發見セシ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人へ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡ス可キ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債汚染又ハ毀損セシキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引拂ヲ大藏省へ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ承認シ得ヘキモノニアラサレハ引拂サルヘシ此引拂ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行へ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過クルハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

◎第七章 大藏省証券條例

○明治十七年九月二十日太政官第貳拾四號布告

大藏省証券條例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

第一條 大藏省証券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省証券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條 大藏省証券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省証券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別チ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各証券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省証券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省証券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省証券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省証券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ル

トキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス
 第九條 大藏省証券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ証券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ証認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省証券ノ所持人其証券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其証券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ証券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省証券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

手形并公債證書諸條例終

專賣特許條例 明治十八年四月十八日 太政官第七號布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣略規則及明治五年(三月)第百五號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

第一條 有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルコトハ其願書ニ發明ノ明細書并必要ノ圖面ヲ添フヘシ但用宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條 專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 左ノ諸項ニ觸ル、モノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス
 一 他人ノ既ニ發明シタルモノ

專賣特許條例

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二 專賣特許願出以前公口用ヒテレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三 治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四 醫藥

第五條 軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下附スヘシ

第六條 專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條 專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條 專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原

專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルハ其發明ヲ改良ノ部分ト合

セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシム

ヘシ

第十條 專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スル

コトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條 專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條 專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ヶ月以内ニ農商務省ニ届出ヘシ

第十三條 專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許證ヲ返納セシムヘシ

一 第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二 願書并明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

- 一 專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ届出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ
- 二 專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ
- 第十六條 專賣特許證ヲ下付シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ
- 第十七條 專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ
 - 一 五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾圓
 - 二 十年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金拾五圓
 - 三 十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者 金貳拾圓
 - 四 議與分與ヲ願出ル者 金五圓
 - 五 追加特許ヲ願出ル者 金五圓
 - 六 專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者 金壹圓

- 第十八條 專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス
- 第十九條 專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ并賠償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十條 專賣特許ノ發明品ヲ偽造シ若シハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ濫用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二十一條 專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二十二條 第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ノ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス
- 第二十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條 第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條 專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルヲ得

附則

明治四年四月七日專賣略規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年(三月)第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ届出ルコトヲ得
本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ届出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ

金額ヲ納ムヘシ

○附錄

◎第一節 專賣特許手續 明治十八年四月十八日 太政官第五號布達

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム
右布達候事

(別紙)

第一條 專賣特許ニ關スル願書及届書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ

第二條 專賣特許ヲ願出ルトキハ壹個ノ發明ニ付願書ニ通明細書并圖面各三通ニ免許料ヲ添フヘシ

二人以上協同シテ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ

第三條 明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第四條 專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 發明ノ名稱
- 二 專賣特許ノ年限
- 三 條例ニ抵触セサル旨
- 四 願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨
- 第五條 明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ目的及性質ノ大體説明
 - 二 圖面ノ解説(圖面ヲ添フルトキハ)
 - 三 發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ説明
 - 四 發明ノ區域
 - 五 發明人ノ族籍住所氏名
- 第六條 圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ説明ト符合セシムヘシ
- 第七條 條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ願書二通ニ專賣特許證、

約定書寫及免許料ヲ添フヘシ

- 第八條 條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ
- 第九條 條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ
- 第十條 條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ届出ヲ爲ストキハ農商務省ニ於テ專賣特許證ニ裏書ヲ爲スヘシ
- 第十一條 條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再度ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ
- 第十二條 專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脱漏又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ
但し其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス
- 第十三條 專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ届出ヘシ

第十四條 條例第四條第一項ニ屬シテ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條 附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル者ハ其來歴ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ

◎第二節 專賣特許條例願書式 明治十八年四月廿三日農商務省第六號告示

專賣特許條例本年第七號ヲ以テ布告相成候ニ付右ニ關スル諸願書式及明細書文例左ノ通相定候條此旨告示候事

願書式 (用級美濃紙其上部曲尺壹寸程下部八分程綴シロ壹寸五分程ヲ餘白ト爲シ字體明瞭ニ認ムルヲ要ス)

第一(一箇ノ發明者又ハ協同發明者又ハ他人ノ發明ヲ讓受ケタル者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ)

一 何發明

專賣特許願

右ハ私私共ノ(何誰發明者何誰ヨリ讓受候)發明コシテ從來世上ニ使用セラレサル(機械)(物品)(方法)ナルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違之虞無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許証下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居所寄留)

族籍

業名

年月日 發明者 氏 名 印

又發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者 氏 名 印

同

同 氏 名 印

又他人ノ發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書同斷

發明者 氏 名 印

同

讓受人 氏 名 印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某 印

第二(相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ)

專賣特許願

一 何發明

右ハ私亡父(亡兄)何誰發明ニ候處何年何月何日死去致候ニ付今般家名相續ノ廉ヲ以テ私受繼候右(機械)(物品)(方法)ノ從來世上ニ使用セラレサルハ勿論一切御條例ニ相觸候儀

無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシテ專賣特許證御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

故何之誰相續人

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

氏 名 印

年月日

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某 印

第三(追加專賣特許ヲ願出ルトキ)

追加專賣特許願

專賣特許條例

私(私共)所持罷在候何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル發明ニ就キ今般改良ヲ加ヘ候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間追加專賣特許證御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

發明者

氏

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某

印

第四(讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ)

專賣權(讓分)與願

- 一 何年何月何日付第何號專賣特許證
 - 一 何發明
 - 一 發明者何之誰
 - 一 現所有主何之誰
- 右ハ今般別紙約定書寫之通何之誰へ讓與(分與)致度依テ前記ノ專賣特許證并御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

(讓分)與人

氏

名 印

肩書前同斷

(讓分)受人

氏

名 印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某

印

第五

專賣特許證紛失(燒失流失)ニ付再渡願

一 何年何月何日付第何號專賣特許證

一 何發明

一 發明者何之誰

右專賣特許證ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ紛失(火災ニ罹リ燒失)(水難ニ遭ヒ流失)候ニ付再度相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

專賣特許證所有者 氏

名 印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某

印

第六(專賣特許證書明細書又ハ圖面ニ遺漏又ハ誤謬又ハトキ其補足又ハ改正ヲ願出ルトキ)

專賣特許證書(發明明細書圖面)脱漏補足(誤謬改正)願

一 何年何月何日第何號專賣特許證

一 何發明

一 發明者何之誰

一 現所有主何之誰

右專賣特許證ニ係ル願書(明細書圖面)中何々ノ遺漏(誤謬)有之候付別紙之通補足(改正)致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ヲ變更シ生ズル礙無之ニ確信候間此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

年月日

發明者(發明讓受人發明人死去)

氏名印

又發明者存生ノトキハ左ノ如シ

肩書前同斷

發明者 氏名印

同

現所有主 氏名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某 印

第七(專賣特許條例附則第一項ニ依リ專賣特許ヲ願出ルトキ)

專賣特許願

一 何發明

右ハ私(私共)明治何年何月發明致シ明治何年何月何日ヨリ使用致來候處一切御條例ニ相觸候儀無之且此願書及別封明細書ニ記載セル事實并圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違ノ廉無之段確信候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下付相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

發明者 氏名印

又發明者二人ナルトキハ

肩書前同斷

發明者 氏名印

同

發明者 氏名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某

印

第八(專賣特許條例附則第二項ニヨリ使用ノ特許ヲ願出ルトキ)

使用特許願

一 何發明

右ハ何之誰發明ノ(機械)(物品)(方法)ニシテ私備營業ノ爲メ明治何年何月何日ヨリ之ヲ使用シ來候處今般右發明人何誰專賣權ヲ受候ニ付テハ何箇年ヲ期限トシ右發明使用ノ備御許可相成度依テ御免許料金何圓相添此段奉願候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

氏名

名印

農商務卿某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何(府知事縣令)某

印

明細書文例

(用紙美濃紙其上部曲尺一寸程下部八分程綴シロ一寸五分程ヲ餘白ト爲シ楷書若クハ行書ニテ明瞭ニ記載スルヲ要ス)

第二(方法)ノ發明ヲ記載スルトキ

明細書

煤氣精製又改良法

煤氣ヲ精製スルニ當リ其容積ヲ著シク減少セシメテ其照力ヲ増進スルヲ得ヘキ新奇有益ノ改良法ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス
從來煤氣ヲ精製スルノ方法ハ煤氣ヲクハ中ヲ通過セシムルコトアリト雖モ單ニ獸炭ノミヲ并用スルトキハ暫時ヲ經ルノ後汚物ヲ吸收スルノ力ヲ耗失スルカ故ニ蒸氣若クハ水ヲ以テ獸炭ヲ洗洗スルカ或ハ煤氣ト共ニ大氣ヲ通過スルカ然ラズンハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再

調セサルヘカラス而シテ單ニ獸炭ノミヲ使用スル時ハ管ニ煤氣ノ照力ヲ減殺スルノミナ
 ラス其容積ヲモ亦減少スルノ憂ヲ免レヌ
 此改良法ノ目的ハ煤氣ノ照力ヲ減殺セヌ其容積ヲモ亦著シク減少セヌシテ其操作法ハ間
 斷ナク且ツ煤氣ヲ充分ニ精製スルニアリ即チ其法ハ煤氣中ノ汚物ヲ除去スル力ヲ増加ス
 レトモ該氣中ノ照氣ヲ吸收セサル物體ヲ獸炭ニ混合シ大氣ト共ニ煤氣ヲシテ之ヲ通過セ
 シムルモノトス

此發明ヲ實施スルニハ石炭「ヌール」若クハ該油ト水或ハ單ニ水ノミヲ以テ獸炭ニ新製ノ
 モノ又ハ使用セシモノヲモ可ナリニテ浸潤シ之ヲ一器或ハ數器内ニ充填シ以テ之ヲ精
 製器トス若シ浸潤スルニ單ニ水ノミヲ以テセサルトキハ獸炭ヲ乾燥シテ充填スルモ亦可
 ナリ而シテ煤氣ヲ該精製器内ニ通過セシムルニ當リ蒸溜器若クハ本管ヨリ少量ノ大氣ヲ
 導入シ例ヘハ精製スル煤氣ノ容積一百分ニ付十分ノ八乃至二ト二分ノ一ノ比例ヲ以テ之
 チ煤氣ニ混合セシム然ル後煤氣ヲ該器内ニ通過セシムルモノトス但シ大氣ノ量ハ煤氣中
 ニ於ケル汚物ノ多少ニ關係ス若シ大氣ヲシテ煤氣ト善ク混合セシメント欲セハ蒸溜器ト

精製器ノ間ニ於ケル本管ノ一局部又ハ精製器ニ密接シタル處ニ於テ適宜ノ混合機ヲ裝置
 スヘシ水瓦斯ヲ精製スルノ際ニモ亦大氣ヲ該瓦斯中ニ導入スルトキハ單ニ水ノミヲ以テ
 浸潤セル獸炭ニテ可ナリ
 此法ニ據レハ大氣中酸素ノ一部ハ硫素ト抱合シ終ニ可溶鹽類ヲ生シ其殘餘ハ全ク硫化水
 素及其他ノ含水素硫素複體ノ水素ト抱合シテ水ヲ生シ更ニ遊離酸素ヲ殘留セス硫化水素
 及其他ノ硫素複體中ニ於ケル硫素ノ一部ハ遊離狀トナリテ獸炭中ニ沈澱シ窒素ノ一部ハ
 殘餘ノ水素ト抱合シ終ニ「アムモニア」鹽類ヲ生ス若シ窒素ハ精製シタル煤氣ト共ニ通過
 シ去ルコトアルモ甚ダ僅少ナルヲ以テ再ニ考アルコトナシ
 此ノ如ク大氣ヲ使用スルトキハ獸炭欠シテ其作用ヲ保存スルヲ以テ該操作法ハ常ニ間斷
 ナク施行スルヲ得ヘシ
 最後ニ獸炭ノ吸收力ヲ失スルニ至リタルトキハ其有用ナル「アムモニア」鹽類ヲ含有スル
 ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ然ラスノハ熱ヲ以テ獸炭ヲ再調シ或ハ水ヲ以テ之ヲ洗滌シ而シテ
 適宜ノ溶劑ヲ以テ硫素ヲ分離シ再ヒ之ヲ使用スヘシ

石炭「マール」ヲ獸炭ニ混合スルニ因リ其煤氣中ノ生油氣及其他ノ照性重炭化水素ヲ吸收スルコトナシ

獸炭ヲ精製器ニ充填スルノ前若クハ後ニ於テ獸炭ヲ處理スルニ煤氣中ノ照氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體即チ該炭ニ交和シテ照氣ヲ吸收セシメサル所ノモノヲ以テナスルヲ得ヘシ特ニ石炭「マール」ヲ掲ケシ所以ニ其最モ得易キヲ以テナリ但シ該油中ノ炭化水素溜液即チ「ベンゾール」ヲ留メモノヲ使用スルモ亦可ナリ

石炭煤氣ノ場合ニ於テハ前記ノ如ク獸炭ハ該氣中ノ硫化水素ヲ吸收ス但シ乾燥ナル獸炭中ニ煤氣ヲ通過セシムルトキハ多少其照力ヲ減殺スヘシ然レトモ大氣ヲ使用シ且ツ石炭「マール」ヲ以テ獸炭ヲ浸潤スルトキハ却テ之ヲ増進ス是レ此ノ如クシタル煤氣ノ照力ハ獸炭ヲ通過セサルトキト同一ナレトモ通過セサルモノニ比スレハ尙ホ一層白焰ヲ生スルヲ以テナリ

此法ニ據ルトキハ硫素ト水素ハ相分離シ硫素ハ獸炭中ニ殘留シ水素ハ煤氣ト共ニ通過シ炭酸氣モ亦全ク通過スルヲ以テ煤氣精製ノ前後ニ於テ實際其容積ニ差異ヲ生セス

此改良法ノ大ニ便宜トスルハ煤氣ヲシテ凝縮器ヨリ直接ニ新發明ノ精製器内ニ通過セシムルヲ得從テ擦掃法ト精製法トヲ結合セシムルヲ得ルニアリ

硫化水素ヲ除却スルニハ之ヲ煤氣中ニ於テ分解スヘキ酸化鐵、錫鐵、「マンガニス」鹽等ノ如キ物體ヲ獸炭ニ混合スルモ亦可ナリ

此精製器ヲ以テ精製セル煤氣ハ更ニ「アムモニヤ」及硫素ヲ含マズ殆ント無臭ナリ此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ左ノ二條トス

第一 已ニ陳述セシ如ク獸炭ノ方便ニ依リ煤氣ヲ精製スルニ當リ煤其氣中ノ照氣ヲ吸收スルヲ豫防スルノ方法即チ照氣ト相互ノ關係アル適宜ノ物體ヲ獸炭ニ混合スルノ法是ナリ

第二 煤氣ヲノ大氣ト共ニ石炭「マール」ヲ以テ浸潤セル獸炭中ヲ通過セシムルノ法是ナリ右之通相違無之候也

何(府縣)地名番(地居住寄留)

族籍

年月日

業名

發明者 氏名 印

又ハ發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者 氏名 印

肩書前同斷

發明者 氏名 印

又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書前同斷

發明者 氏名 印

肩書前同斷

讓受人 氏名 印

農商務卿某殿

第二(組成劑ノ發明ヲ記載スルトキ)

明細書

脱毛煤助劑

毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛及脂肪ヲ脱除シ易カラシムルカ爲ニ使用スヘキ新規有益ノ組成劑ヲ發明セリ之ヲ左ニ明解ス

此組成劑ハ清水、石灰、曹達、硝石、及ヒ花狀硫黃ヨリ成ル即チ其割合ヲ掲クルヲ左ノ如シ

清水 一二五、〇

生石灰 八、〇

曹達 一二、〇

硝石 二、四

花狀硫黃 一、二

以上ノ成分ヲ攪摺シテ善ク之ヲ混和セシムルモノトス

此組成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮裡ニ含有スル鹽類及汚物ヲ脱

專賣特許條例

二十七

除シ之ヲ清淨ニシタル後此液劑中ニ浸スヲ四十八時間ニシテ之ヲ取出シ通法ヲ以テ其毛ヲ脫除スルモノトス

此組成劑ヲ使用スルトキハ管ニ其毛ヲ脫除シ易カラシムルノミナラス毛皮ヲ鞣化スルニ當リ妨礙ヲ來タスヘキ脂肪及ヒ其他ノ物質ヲ脫除スレトモ精良ノ皮革ニ變成スヘキ質ハ却テ之ヲ保存ス

此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ上文既ニ記載セシ如ク毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛ヲ脫除シ易カラシムル爲ニ使用スヘキ組成劑是レナリ

右之通相違之候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

發明者 氏名 印

又ハ發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者 氏名 印

肩書前同斷

發明者 氏名 印

又他ノ發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書前同斷

發明者 氏名 印

肩書前同斷

讓受人 氏名 印

農商務卿某殿

第三(器械ノ發明ヲ記載スルトキ)

明細書

「クリーム」分離器械

此發明ハ牛酪製造ノ際永ノ方便ニ藉リ牛酪ヲ冷却シ以テ其「クリーム」ヲ分離スル爲メニ
使用スヘキ新奇有益ノ器械ナリ之ヲ左ニ明解ス

此器械ハ長方形ノ水槽ニシテ其内部ノ中間ニ圖中(イ)ノ如ク氷塊ヲ抑止スヘキ焙格形ノ
裝置ヲナシ又槽ノ一側面ニ「クリューム」ノ全ク上浮セルヤ否ヤヲ窺ヒ得ヘキ玻璃窓(ロ)ト
槽庭ニ接近セル所ニ吸子(ハ)トヲ備ヘリ圖中ニ槽ノ側面ヲ截斷セル所以ハ只メ其内部ノ
結構ヲ示サンカ爲メナリ

此器械ヲ以テ乳ヲ冷却スルニハ先ツ槽ノ高サ四分ノ一ニ達スルマテ清浮ナル氷塊ヲ密布
シ其上ニ乳ヲ注入ス但シ乳四十斤ニ付氷十斤ノ割合ナリト然ルトキハ氷塊ハ焙格ニ抑
止セラレテ液面ニ上浮スル「ナ」ヲ從テ乳ト混合シテ「クリューム」ノ分離ヲ妨碍スルノ憂ア
ル「ナ」シ斯ク乳ヲ冷却スル「ナ」大約四十分時間「クリューム」ノ全ク液面ニ上浮スルヲ俟テ之
ヲヒ取り尋テ吸子(ハ)ヲ開キ殘乳ヲ洞出シ之ヲ乾酪製造場ニ送ル此操作中溶解セル氷水
ハ少量ニシテ未ダ殘液ノ品位ヲ劣スニ至ラス又更ニ「クリューム」ト混合セルナリ
此器械ニ依リテ分離セル「クリューム」ハ其品位頗ル良好ニシテ其量甚ク多シ而シテ此器械

ヲ使用スルトキハ「クリューム」ノ速カク分離スルヲ以テ殘液ノ酸味ヲ呈セサルコト先チ之ヲ
乾酪製造場ニ送ルヲ得ルト一年四季中何時ニテモ常ニ之ヲ施行シ得ルトノ二便アリ
此發明ノ專賣特許ヲ請求スル區域ハ已ニ記載セルカ如ク水槽中ニ裝置セル焙格形ノ抑氷
機是レナリ

右之通相違無之候也

何(府縣)地名番地(居住寄留)

族籍

業名

年月日

發明者

氏

名

印

又ハ發明者二人ナルトキ

肩書前同斷

發明者

氏

名

印

肩書前同斷

發明者 氏名印

又他人發明ヲ讓受ケタルトキ

肩書前同斷

發明者 氏名印

肩書前同斷

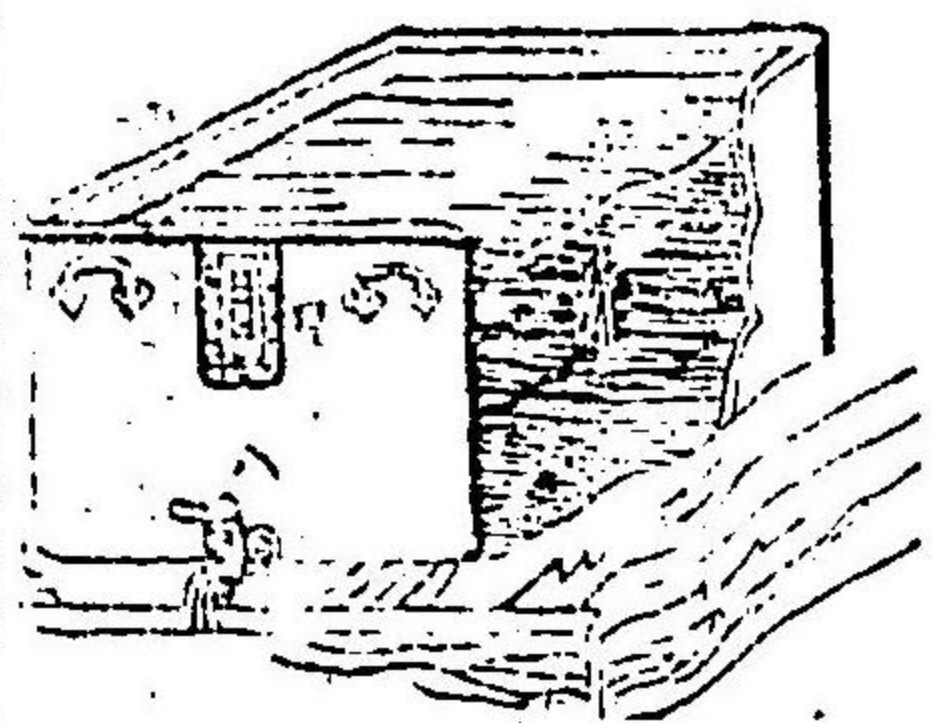
讓受人 氏名印

農商務卿某殿

本人割印



第四(圖面)



○明治十八年四月廿三日 農商務省第七號告示

專賣特許條例第十條發明品ノ標記左ノ通相定候條此旨告示候事

專賣特許何年何月何日ヨリ何年間

專賣何年何月何日何年間

專賣(以下年月日ノ數字ヲ記スヘシ)

例ハ明治十八年七月一日ヨリ五年間專賣特許ヲ受ケタレハ

專賣一ノ六ノ一ノ五ト記スカ如シ

前三項ノ内專賣人便宜ニ依リ撰擇シテ標記スヘシ但縱若クハ横ニ一行又ハ二行ニ記シ或ハ

圓形橢圓形等ニ一行ニ記スルモ妨ケナシ

專賣特許條例 終

商標條例 明治十七年六月七日 太政官第拾九號布告

商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事 「左大臣農商務卿連署」

(別冊)

第一條 商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登録ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登録ノ日ヨリ十五年間之ヲ專用スルノ權ヲ有ス可シ

第二條 商標ヲ專用セント欲スル者ハ願書ニ見本并明細書ヲ添ヘ登録ヲ願出ツ可シ其明細書ニハ商標ノ説明、用方并其商品ノ名目種類ヲ詳記ス可シ

第三條 商標ノ登録ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日附ヨリ二月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登録ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登録ヲ願出ツル者アリ抵觸スルキハ其願書ノ日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同キ者ハ共ニ之ヲ却下

ス可シ

第四條 登録商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ム可シ

第五條 左ノ商標ハ登録ヲ願出ツルコトヲ得ス

- 一 已ニ登録セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者
- 二 地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章ノミヲ以テスル者
- 三 同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者
- 四 新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者

第六條 登録商標主其專用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ケ年ニ及ヒタルトキハ三ヶ月以内ニ之ヲ居出ツ可シ

第七條 登録商標專用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ之ヲ居出ツ可シ

第八條 登錄商標主其商標ノ專用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ但專用年限ハ最初登錄ノ日ヨリ通算ス可シ

第九條 登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分ス可シ

第十條 登錄商標專用満期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ満期三ヶ月前ニ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

第十一條 登錄證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツ可シ

第十二條 商標主登錄セシ後第五條ニ觸レ又ハ登錄願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ其登錄無効ニ歸シ登錄證ヲ返納セシム可シ

第十三條 登錄商標主其業ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其專用權ヲ失ス休業二ヶ年ニ及ブ者亦同シ

第十四條 商標ノ登錄ヲ願出ツル者ハ左ノ手数料ヲ納ム可シ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付ス

返付ス

一 商標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種ニ

トニ金五圓ヲ加フ

二 商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル者及満期續用ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金五圓

三 登錄證ノ再渡ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金壹圓

第十七條 登錄商標主其專用權ヲ侵サシムルコトキハ之ヲ告訴シ並要領ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十八條 登錄商標ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十九條 登錄商標ニ相紛ヲハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十九條 第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分
離スヘカヲサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ得及商標ノ登録ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六
月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條 第六條第七條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ
科料ニ處ス

第二十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第二十三條 第十六條ヨリ第十八條ニ至ル罪ハ登録商標主ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第二十四條 登録商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附シ
タル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則
本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セシム欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ
於テ其登録ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵

願書ヲ願書到達セシムレハ之ヲ登録ス可シ

若シ一人以上同種ノ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用セシムル者ハ登録ヲ願
出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ農商務卿ニ於テ其商標ノ使
用最久シキト認定スルモノヲ登録シテ其他ヲ却下ス可シ

本條例第三條ニ依リ處分ス可シ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置附則
第一項ニ依リ願出ツルモノニ抵觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ之ヲ却下ス
可シ

前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手数料ヲ返付ス

○〔布告第四號〕 十八年一月二十四日 〔農商務卿連帶〕

明治十七年(六月)第拾九號布告商標條例附則ニ左ノ一項ヲ追加ス
本條例頒布以前使用スル商標ニシテ現ニ共同業者間ニ專用ノ効アルモノハ商業上慣用セ
ル印ト雖モ其登録ヲ願出ルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○附錄

◎第一節 商標登錄願手續 ○明治十七年六月七日 太政官第拾三號布達

今般商標條例制定候付商標登錄願手續別冊ヲ通和定ム
右布達候事
〔左大臣農商務卿運署〕

〔別冊〕

第一條 商標ニ關スル願書届書ハ都テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出ス可シ

第二條 商標ノ登錄ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚及手數料ヲ添へ願書并明細書各二通ヲ

差出ス可シ

第三條 一箇ノ商標ハ二種以上ノ商標ヲ用ヰテ爲メ及二種以上及商標同種ノ商標

用ヰルヲ爲メ登錄ヲ願出ツルハ其商標一種以テ商標一箇毎ニ各別ノ願書及明細書ヲ差出

ス可シ

第四條 條例第七條ニ據リ相續者届出ツルハ其死亡後相續者係屬公相續者并ニ身元

未及輸入同種商標者其生存中相續者係屬者ハ登錄商標主相續者連署ス可シ

第五條 條例第八條ニ據リ讓與分與ヲ願出ツルトキハ讓主讓受主連署シ讓主ヨリ登錄證并

約定書寫及手數料ヲ添へ願書二通并明細書分與願ニハ三通ヲ差出ス可シ

其登錄ヲ經タルトキハ分受人ニ別ニ分受登錄證及明細書ヲ下付シ分與人又ハ讓受人ニ

ハ前登錄證及明細書ニ裏書檢印シテ之ヲ下付ス可シ

第六條 條例第九條ニ據リ登錄商標ノ轉用兼用ヲ願出ツルトキハ第二條ニ準據ス可シ

第七條 條例第十條第十一條ニ據リ商標ノ續用及登錄證ノ再渡ヲ願出ツルトキハ手數料ヲ

添へ願書二通ヲ差出ス可シ

第八條 登錄願書ヲ却下スルトキハ其理由ヲ指示スヘシ

第九條 登錄商標主ハ其商標ノ彩色ヲ適宜變換スルコトヲ得

第十條 登錄商標主ハ農商務省ノ指揮ニ隨ヒ商標又ハ其寫書ヲ登錄證下付ノ日ヨリ三十

日以内ニ差出ス可シ

第十一條 登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ但願人ニ於テ其種類ヲ判

商品ノ種類

- 第一種 化學品及藥劑 酸類 鹽類 「アルカリ」 漂白粉 護膜 樹脂 膠 燐 石礫 酒精 「グリセリン」 「キナエン」 「モルヒネ」 丁幾劑 舍利別 煎劑 丸藥 膏藥 藥油 麝香 丁子等
- 第二種 染料及顔料 藍玉 藍靛 紫根 紅朱 丹 綠青 燒青 洋靛 白粉 胡粉 藤黃等
- 第三種 塗料 漆 假漆 「ペンキ」 澁 靴墨等
- 第四種 香料及燻料 香油 髮膏 香袋 香水 炷香 線香 燻香等
- 第五種 金屬及其半加工品 鉛 鉛板 亞鉛 亞鉛板 錫 合金等 鋁 鋁板 鐵 鐵板 銅 銅板 銅鐵線
- 第六種 金屬ノ製品 鑄物 打物 彫鏤品及編物等
- 第七種 利器及尖刃器 鎌 鋸 鑿 錐 鑿 針 釘 剪刀 小刀 剃刀 庖丁 意嘴 等

第八種 貴金屬及其製品(アルミニウム金ニッケル銀ノ製品モ此中ニ屬ス) 黃金 銀

四分一紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品及彫鏤品等

第九種 珠寶及其彫鏤品 珊瑚珠 眞珠 瑪瑙 水晶 黃玉 碧土等及其模造品

第十種 鐵物類(但石炭ハ第五十一種ニ屬ス)

第十一種 石材及其製品并彫鏤品 石板石 大理石 砥石 石器等及其模造品

第十二種 漆喰類 漆喰 「セメント」 石膏等

第十三種 陶磁器類 諸種ノ陶磁器 土器 埴埴 瓦 煉化石等

第十四種 七寶燒

第十五種 玻璃及其製品 玻璃壺 玻璃管 彩色玻璃等

第十六種 機械類 紡績機 裁縫機 製糖機 印刷機械其他諸製造機械 蒸氣ノ機關及

罐等

第十七種 農工器具 鋤 鉞 唐箕 熊手 釘板 鐵鎚 繩墨等

第十八種 學術上ノ器械類 理化學 醫術及測量等ノ器械

- 第十九種 度量權衡
- 第二十種 運送用ノ車類 荷車 馬車 人力車 自轉車等
- 第二十一種 樂器 琴 三味線 胡弓 笛等
- 第二十二種 時計及其付屬品
- 第二十三種 銃砲 彈丸 火藥 烟火類
- 第二十四種 蠶種紙 繭
- 第二十五種 真綿及木棉綿
- 第二十六種 生絲 絹絲及天蠶絲(琴絲 金絲 銀絲等モ此中ニ屬ス)
- 第二十七種 綿絲
- 第二十八種 毛絲
- 第二十九種 麻絲
- 第三十種 絹織物
- 第三十一種 木綿織物

- 第三十二種 毛織物
- 第三十三種 麻織物
- 第三十四種 絹綿麻毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五種 絲類ノ編物及組物 「レース」 打紐 網等
- 第三十六種 被服 諸種ノ衣服織物製帽子 手套 足袋 織物製雨衣 袴 目利安等
- 第三十七種 釀造物及飲料 諸種ノ酒 酢 醬油 蜜柑水 曹達水等
- 第三十八種 砂糖 諸種ノ砂糖 糖蜜 蜂蜜等
- 第三十九種 菓子及麵包類 干菓子 蒸菓子 掛ケ物 西洋菓子 飴 砂糖漬等
- 第四十種 茶及咖啡類
- 第四十一種 煙草類
- 第四十二種 穀菜種子及菓物類 五穀 蔬菜 草 菓實 種子根球等
- 第四十三種 挽粉澱粉及其製器 諸種ノ挽粉 澱粉 麩類 湯波 蒟蒻 凍豆腐 凍蒟蒻等
- 第四十四種 味噌 膏物及漬物類

- 第四十五種 肉類海草ノ貯藏食品 鯉節 鰵 乾鮑 海苔 昆布 佃煮 罐詰 雲丹諸種ノ鹹製品等
- 第四十六種 牛乳製品 凝乳 乳油 乳餅 乳粉等
- 第四十七種 煙具及袋物 諸種ノ煙管 煙袋 煙管筒 懷中物等
- 第四十八種 紙及其製品 諸種ノ紙 色紙 冊短 擬草紙 油紙 澁紙 書管筒 帳文匣 一閑張 元結等
- 第四十九種 筆墨類 筆 墨 朱墨 印肉 墨汁 石筆 鉛筆 洋筆等
- 第五十種 皮革及其製品 馬具 革包 交匣 革帶 靴等
- 第五十一種 燃料 諸種ノ炭 附木 摺附木 燈心等
- 第五十二種 油蠟類 諸種ノ油 蠟 蠟燭 脂肪等
- 第五十三種 肥料 干鰯 鮭粕 油粕 骨粉等
- 第五十四種 木竹材
- 第五十五種 木竹藤製品及其漆塗時給品類 指物 挽物 曲物 桶類 編物 組物等

- 第五十六種 角甲牙類ノ製品
 - 第五十七種 藁及草ノ製品 疊表 蓆 編笠 繩 麥藁細工等
 - 第五十八種 傘杖及履物 諸種ノ傘 杖 下駄 草履 鼻緒等
 - 第五十九種 扇子及扇團
 - 第六十種 提燈及「ランプ」類
 - 第六十一種 齒磨及洗粉
 - 第六十二種 刷子類
 - 第六十三種 玩具類 花簪 鞠 碁 將棊 人形獨樂 揚弓 押繪 造花 骨牌等
 - 第六十四種 錦繪及寫真類
 - 第六十五種 書籍新聞紙雜誌類
- ◎第二節 商標登錄願書式
- 明治十八年一月二十八日農商務省第壹號告示
- 本年第四號ヲ以テ商標條例附則中追加相成候。付商業上慣用ノ目印ニシテ現ニ同業者間ニ

專用ノ効アルモノニ限り其登録願書ノ書式左ノ通相定候條此旨告示候事

書式

(用紙美濃紙)書中字體ハ明瞭ナルヲ要ス

商標登録願書

私(當會社、當組)儀別紙明細書ニ記載ノ商標ヲ何年何月何日(使用久シテ其年月日詳ナラサルモノハ年又ハ月ノ下ニ頃ノ字ヲ記スヘシ)ヨリ相用來候處同業者間ニ專用ノ効アルハ勿論一切御成規ニ相觸候儀無之段確信致候間御登録ノ上證書御下付相成度同業者二名ノ保證人相立此段奉願候也

年月日

何府地名居住
何縣地名寄留
族藉

業名

願入

氏

名

印

肩書前同斷

保證人

氏

名

印

又ハ

同

氏

名

印

肩書前同斷

何會社
何組社
社印

社長
社長

願入

氏

名

印

肩書前同斷

保證人

氏

名

印

同

氏

名

印

農商務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事
何縣令

某

印

商標條例終

質屋取締條例

○明治十七年三月廿五日太政官第九號布告

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

質屋取締條例

- 第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳警視廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第三條 質物臺帳ニハ警察署ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但証人ヲ要スルトキハ質入主及証人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ
- 第四條 身元詳つまびらかナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス
- 第五條 十五年未滿ノ者白痴風癡者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人かぞがらし雇主又ハ身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ章印記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サル、コトアルヘシ

第六條 盜罪詐取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ横流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時ヲリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ査檢ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事 東京府 縣令ニ於テ便宜取設ケ内

務卿ニ提出ヘシ

質屋取締條例終

古物商取締條例

○明治十六年十二月廿八日太政官第五拾號布告

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古著古銅鐵遺金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買スル者及

刀劍商ハ此條例ニ據テスヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受リヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタル時ハ警察官ニ於テ其物品及賣主讓主ヲ調査ス

ルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タル時ハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス

但身元詳ナル者其証入タルモ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルモハ此限ニアラ

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及ヒ雇人雇主ノ家ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルキハ此限ニアラス
官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキヲ證明スル証人二名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サル、コトアルヘシ
第六條 古物商ハ營業者タルト否トハ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルキハ警察官ノ許可ヲ受ク可シ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ
警察官ハ時宜ニ依リ荷作りヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人ノ之ヲ擔當スヘシ
第十條 贓物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ
第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ
第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若亡失シタルキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ
第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處罰ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳警察廳ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ附スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状（印章番號 編號 摸樣）損所ノ類ノ價額年月日ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラレ、コアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取り又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルキハ之ヲ領置シ一年ノ後官没ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府 縣令）ニ於テ便宜取設ケ内

務卿ニ届ケ出ツヘシ

古物商取締條例

新聞紙條例

○明治十六年四月十六日太政官第拾貳號布告

新聞紙條例別冊ノ通改正ス

(別冊)

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受クヘシ時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若シハ社主ヨリ差出スヘシ

一 題號

二 記載ノ種目(政治法律農工商業等ノ類)

三 刷行ノ定期又ハ無定期(毎日毎周毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者)

四 發行所及印刷所

五 持主若シハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齢住所

第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラヌ新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主ノ例

ニ依ル

第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルキハ更 管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ届出テ准許ヲ受クヘシ
前項ノ外第二條ノ願書ニ掲クヘキ事項ニ於テ變更アルキハ七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ

第五條 持主若クハ社主死去又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ届出テ准許ヲ受クヘシ

第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條 内國人コシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非レハ持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス
公權ヲ停止セラレ反演説ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルキハ保証トシテ左ノ金額ヲ納ムヘシ但シ專ラ學術技術統

計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保証金ハ持主若クハ社主ヨリ爲換方又ハ銀行ノ預手形或ハ貼價ニ準シタル公債証書ヲ以テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルキハ保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルキハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

發行ノ定期ニ發行セサルキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ
無定期ノ新聞紙前號ノ刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過テ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ毎號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名並發行所ヲ記載スヘシ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及本管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルヲ得

第十五條 各地方(東京府ヲ除ク)ニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル、者ト認ムルハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押ルヲ得府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルハ其新聞紙ヲ差押ヘ及ビ發賣ヲ禁スルヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非レハ印刷器ヲ差押ルヲ得ス

第十七條 一八又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルヲ得ス

第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主編輯人印刷人及ヒ筆者譯者ハ其犯罪ヲ以テ論ス

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルヲ得

其告訴發テ爲スニ際シ豫審判事檢察官 警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルヲ得

第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セズ又ハ損害ヲ賠償セサルハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルハ刑法第二十七條及ヒ第四十七條ニ依

ル保証金ヲ以テ裁判費用賠償及ヒ罰金ニ充テタルハ持主若クハ社主ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ完納スヘシ若シ納完セサルハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス

新聞紙條例

第二十一條 准許ヲ得ヌ又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

第二十二條 詐偽ノ願書若クハ届書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス

前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルヲ得

第二十三條 第四條第二項及ヒ第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人ト爲ルヲ得ヌ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳

百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ト爲ルヲ得ヌ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者受賣者頒布者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フヘシ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルキハ之ヲ証明スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルキハ其求メテ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤

スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル、者及ヒ之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルモハ此限ニ在ラス

○明治十八年七月廿九日太政官第貳拾壹號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

第三十條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ正誤ヲ載セヨルモハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキヲ總テ前條ノ例ニ依ル

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ハ其官報又ハ新聞紙ノ題號并ニ發行ノ年月日ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 式ニ依リ宣布セサル公文及ヒ上書建白辭願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルコ非レハ之ヲ記載スルヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ録シ若クハ草案ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳密ニ拘フス之ヲ記載スルヲ

ヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルヲ禁スルヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス

第二十七條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル、者ハ重ニ從

ヲ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條

成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ義ヲ亂ル者及ヒ顯ハコ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附加ス

第三十九條

猥褻ノ文辭圖書及誹謗ヲ寓シタル戯畫ヲ掲載スルヲ得ス犯ス者ハ二拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條

第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條

此條例ヲ犯シタル者コハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條

外國ノ新聞紙及ヒ書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内

ニ此條例ニ從ヒ願書及ヒ保証金ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出スヘシ若シ期限内ニ差

出サ、ルキハ准許ノ效ヲ失フ者トス其願書及ヒ保証金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルヲ得

○明治十六年六月二十二日太政官第二拾壹號布達

凡ソ官報ニ登載シタモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルヲ得ナル者ト雖用各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルヲ得

官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正スルハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ

○明治十八年五月廿三日內務省甲第拾七號達

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐方新聞ヲ除ク)ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルキハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスルモノハ出願ノ際其旨持主又ハ社主ニ相達左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省ニ進達可致此旨相達候事

但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾證爲差出受

書一同進達候儀ト心得ヘシ

書式

(今般何新聞發行相願候ニ付准許相成候上ハ自今何新聞紙ニ歐文ノ新聞紙ヲ除キ他ノ新聞紙ニ掲載スル論説ヲ十日以内ニ轉載致候節ハ必原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ得ヌル上記載可致候也

年月日

持主何ノ誰

(警視總監府知事縣令)宛

豫メ轉載ヲ目的トスル新聞紙原新聞紙持主又ハ社主ノ承諾證ニ添付スル書式

(今般准許相願候何々新聞ハ)何々新聞何々新報ニ掲載スル論説ヲ轉載致候目的ニ付何々

新聞何々新報持主又ハ社主ノ承諾ヲ得候條別紙承諾證相添此段御届仕候也

年月日

持主何ノ誰

(警視總監府知事縣令)宛

新聞紙條例終

出版條例

○明治八年九月三日太政官第三百三十五號布告

第一條

(明治十六年六月廿九日太政官第二拾壹號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ如ク改正ス)

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントスル者ハ出版ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ内務省ニ届ケ出ツ可シ

但社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラス

第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ版權ト云フ

但版權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ版權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フ可シ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第三條 出版届版權願トモ草稿ヲ添ルロ及ハラスト雖も時シテハ草稿ヲ檢査スルコトアル可シ

第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世治ニ害アル者ト認ムル者ハ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ

出版條例

對版ヲ毀テシムルコトアルヘシ

第五條 出版屆版權願トモ其ノ所在ノ地方廳 本籍又ハ寄 留ノ地方廳 ヲ經由ス可シ

但著譯者出版人其管轄 ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳 ヲ經由ス可シ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期ヲ許スコトアル

ヘシ

第七條 版權免許ノ爲メニ其年限ヲ記セル證書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出 版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部コシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年 限ヲ起算スヘシ

第九條 他人ノ著譯書己ノ版權ヲ有スル者ヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ 願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト看做スヘシ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スル者ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘテ出 版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サル可カラズ其出願ノ手續ハ前條ニ依ル可シ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ

テ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルコト非サレハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數 ヲ分合シテ改版スルコト止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ル可シ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其版權ヲ願フキハ之ヲ與フ

第十三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ內務省ヘ届ケ出ツ可シ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得可シ其版權願書若クハ出版 書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽窃スルヲ許サス 但論辨若クハ証明スル爲メニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ者二人以上アル時ハ共ニ

版權ヲ與フ可シ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ檢査シテ後チ之レヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但表題ノ上ニ著譯ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ內務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ內務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ム可シ納本セス及ヒ免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス但出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條 一版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ氏名ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記スヘシ而シテ何年何月日出版或ハ何年何月日版權免許ト記シ版主ノ住所氏名ヲ

記スヘシ氏名ヲ記セスシテ別號ヲ記スルコトヲ得ス

版權ヲ相續シ若クハ賣買若クハ分版シタルモハ相續人及ヒ分版ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條 版權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スルモハ雙方連印シテ其由ヲ內務省ヘ届ケ出ツヘシ

第二十三條 版權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一ノ圖書ヲ各自ニ出版スルコト妨ケナシ之ヲ公版ト名ク

但雙方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

第二十四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版レテ届ケ出サル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十五條 翻譯ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出テ又ハ納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出テタル上更ニ之ヲ與フヘシ

但手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムル

第二十七條 小説雜誌ヲ出版スル者亦此條例ニ從フヘシ

第二十八條 (明治十六年六月廿九日太政官第二拾壹號) 號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ如ク改正ス

彫畫ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ヘ届出ツヘシ

但版權ヲ與ヘズ

○明治九年二月九日太政官第拾二號布告ヲ以テ左ノ二項ヲ追加ス

第二十九條 版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上離形ノ通藏版人免許狀ヘ地方廳印ヲ請フニ依テ

第三十條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ツヘシ

但願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムル

○明治九年五月三十一日太政官第八拾壹號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

第三十一條 都合ニ因リ版權ヲ要セザル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手数料トシテ金三拾錢ヲ納ムル

但收納方ハ免許料ト同權タルヘシ

出版條例罰則

第二條 (明治拾六年六月廿九日太政官第二拾壹號) 號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ如ク改正ス

内務省ヘ届ケヌシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得ヌシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本

及ヒ免許料ヲ出サズシテ發賣スルヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シタル者ハ其刻

版印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス

第二條 凡シ偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ繪圖ノ模樣ヲ變少シ若クハ少加シテ其表題ヲ

改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出版スル者ハ罰金ニ拾圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻版

印本及ヒ賣得金ハ沒收シテ版主ニ給付ス

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スル圖書タルヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓

以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スル圖書タルヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及ヒ賣得金ニ沒

收シテ版主ニ給付ス

第四條 無名若クハ版主ノ住所ヲ記ササルノ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スル者并ニ變名偽名

シ若シハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若シハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス

但沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 (明治十六年六月廿九日太政官第貳拾壹號) 布告ヲ以テ本條ヲ左ノ如ク改正ス

凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十七條第三十八條第卅九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以テ論シ該條例ニ依テ罰ヲ科ス

但印刷器ヲ沒收スルハ第七條第二項ノ場合ニ限ル

第六條 (明治十六年六月廿九日太政官第貳拾壹號) 布告ヲ以テ本條ヲ削除ス故ニ略ス

第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及ヒ現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ

官ニ沒ス

活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若シハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

附則

一此條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達等一切取消シ候條從前出版ノ圖書ハ此

條例發行ノ日ヨリ四ヶ月ヲ限リ此條例ニ準據シ更ニ願出ツヘク右限内願出テサルモノハ

總テ版權無之儀ト心得ヘシ

一從前出願ノ圖書ト雖モ版權願出ルニ於テハ免許料上納スヘシ

但製本ハ納ムルニ及ハス

一自今院省使廳府縣ニ於テ出願スルモノト雖モ布告公文及該廳ニ關スル日誌規則ノ類ヲ除クノ外ハ必ス内務省ヘ届出ツヘシ

○明治十五年四月廿六日太政官第八號布達

本曆并略本曆明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシム可シ

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月廿八日内務省甲第三拾九號布達ハ取消ス

○明治八年十月廿八日内務省甲第二拾號布達

今般第百三拾五號布告ノ通出版條例改正ニ付テハ從前發行セシ圖書ト雖モ釋義份ヲ亂ルモノ及ヒ新聞紙條例第十二條ヨリ十四條迄ニ係ルモノハ來明治九年八月三十一日限リ發賣差止候條此旨布達候事

○明治八年十月廿九日內務省甲第二拾壹號布達
出版屆書ノ氏名從前放籍ノ有書致候處自今官位ナル者ハ族籍并官位ヲモ記入シ可出此差旨布達候事

○明治九年五月二日內務省甲第拾四號布達
客歲九月御布告相成候出版條例第二條但書ニ(其關ハナル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス)ト有之候得共出版屆ノ條ハ第一條ノ通出版ノ前必ス當省ニ可届出備ト可相心得此旨布達候事

○明治九年五月廿九日內務省甲第二拾號布達
凡ソ新刻ノ圖書版權ヲ有シ度者ハ出版版權共合セテ可願出若シ出版屆ノ差出後日ニ至リ版權願出候共授與致ガメ候條此旨布達候事

○明治十四年三月十日文部省第壹號布達

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ内誤刻有之モノ相見ハ教育上ノ弊害ヲ生スル不勘憫ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢査ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨像ヲ布達候事

但本文翻刻圖書ハ檢査ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當省ニ一部納本可致候事
○明治十五年十月十八日內務省乙第五拾五號達

神社寺院之守札ト可認モノ及ヒ神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成備ト可心得此旨相達候事

但從前屆書ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合於テハ更ニ申出ヘン
○明治十七年二月廿八日內務省甲第五號告示

州版圖書刻成納本ノ儀ハ自今當省圖書局ニ差出メ可シ此旨告示候事
但明治九年一月甲第二號布達納本書式宛名ニ局長ト改正メ

○明治十七年十月三十日太政官第二拾九號布達

第五條 凡ソ圖書ヲ寫真スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ル可シ

第六條 第三條ヲ犯シ若シハ情ヲ知テ轉賣スル時ハ其現在ノ寫真ヲ沒收シ壹圓ヨリ少ナカ
テス拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪ス可シ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫真ヲ復寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之レヲ發賣シ若クハ情
ヲ知テ轉賣スル時ハ現存ノ寫真ヲ沒收シ貳圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサルノ罰

金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム
但シ原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セズ

寫真條例終

集會條例

○明治十三年四月五日第拾貳號布告

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會二日前ニ講談論議ノ
事項ヲ詳談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ共會主又ハ會長幹事等ヨリ管
轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 (明治十五年六月三日太政官第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)政治ニ關スル
事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論
議スル爲メ結合スルモノヲ併稱ス)スル者ハ結社前共社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄
警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タ
ル可シ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリ也之ニ答辨
スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サント
スルキハ尙ホ第一條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルルキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルルハ第一條ノ手續ヲ爲ス可シ

第四條 (明治十五年六月三日太政官第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 管轄警察官ハ第一條第三條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルルキハ之ヲ認可セズ又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消ス可アル可シ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ証ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコアル可シ

○明治十五年六月三日太政官第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

警察官會場ニ入ルルキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルルキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリモ之ニ答辨ス可シ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ証ヲ開示セサルルキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルル又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルルキ及ヒ集

會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハサルルキハ全會ヲ解散セシム可シ

○明治十五年六月三日太政官第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタル地方長官(東京ハ警視長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムルコトヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内國內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備隊後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農工職ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得

第八條 (明治十五年六月三日太政官第貳拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導ナシ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連絡通信スルコトヲ得

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スコトヲ得

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケヌメ集會ヲ催スモノ會主ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 (明治十五年六月三日太政官第二拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サヌ又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルキ社長ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルキハ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 (明治十五年六月三日太政官第二拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セヌ又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘヌ又ハ偽答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罪

金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ退散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事一年以上ハ五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 (明治十五年六月三日太政官第二拾七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正シ更ニ第十七條八十九ノ三ヶ條ヲ追加シ而シテ本條ノ舊成文ヲ以テ之レヲ第十九條ニ置ク)

學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルコト拘ハラヌ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルキハ第十二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

○明治十三年四月六日太政官第三號布告

今般第拾二號布告ノ通り集會條例被定候ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ此旨布告候事

○明治十三年五月五日陸軍省乙第三拾二號達

今般集會條例御發行相成候ニ付テハ陸軍々人并ニ諸生徒ニシテ右條例ノ制限ヲ犯ス者ハ總テ地方裁判所ノ處分ニ屬スル儘ト可相心得此旨相達候事

集會條例終

請願規則

○明治十五年十二月十二日太政官第五拾八號布告

請願規則左ノ通制定ス

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開

陳スルハ此限ニ在ラス
 第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ與印ヲ受クベシ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ與印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ
 第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ各夫以テ請願スルコトヲ得ス但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス
 第六條 請願書ヲ上呈スルハ代人ヲ以テスルヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ビ之ヲ委託スヘシ
 第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得
 第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所官署ノ指令書ヲ添フヘシ
 第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ
 第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルキハ主務省ニ付シ處分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
 第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス
 第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス
 第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十二條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス
 第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス
 第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラザル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外敷唆者アルキハ發起人ト同ク罪ヲ

論ス

其嘲聚セウシヨニ渉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第拾八條 請願人官吏ニ對シ抗論コウロンシ喧擾ケンジョウニ渉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ渉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行コウカウスルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項

ニ回シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告ユウカクスル者ハ刑法ニ依テ處分ス

○明治十六年一月十七日內務省甲第二號告示

明治十五年(十二月)第五拾八號布告ニ據リ請願スル書面ハ美濃紙ヲ用ヒ正副貳通宛指出ス
ヘキモノトス但シ其書面ヲ却下キョクカスル場合ト雖モ副書ハ留置クコアルヘシ此旨告示候事

請願規則終

教育令

○明治十八年八月十二日皇政官第二拾三號布告

明治十三年(十二月)第五拾九號布告教育令左ノ通り改正ス但シ明治十四年(七月)第三拾八號布告伊教育令第九條トアルヲ教育令第八條ト改メ同十五年(十二月)第五拾六號布告ヲ廢止ス

在ト勅旨ヲ奉テ修訂候事

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校教場幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別

皆文部卿ノ監督内ニ在リ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校其他各種ノ學校トス

第三條 小學校及中學校教場ノ兒童ニ普通ノ教育ヲ施ス所トス

第四條 師範學校及普通學校ノ教授所トス

第五條 大學校、法學、醫學、文學等ノ專門教科ヲ授ル所トス

第六條 師範學校ハ教育者養成ノ所トス

第七條 專修學校ハ法科理科農科文科農業商業職工等各科ノ學業ヲ授ル所トス

第八條 各町村ハ庶務課縣令ノ指示ニ從ヒ設立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若ハ數箇ノ小學校又ハ小學教場ヲ設置スヘシ但シ本文小學校又ハ小學教場ニ代ルヘキ私立小學校又ハ小學教場アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

第九條 凡ソ兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トス

第十條 學齡兒童ノ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十一條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ普通科ヲ卒ラサル間已ムテ得サル事故アルコアラキレハ毎年就學セシメサルヘカラス但シ就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經テ改メ得ル

第十二條 小學校及ヒ小學教場ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下ナルヘク授業日數ハ毎年三十一日以上タルトシ其授業時間ハ一日三時ヨリ少カラズ六時ヨリ多カラサルモノトス但シ土地ノ精况ニ依リ午前若シハ午後ノ半日又ハ夜間ニ授業スルコトヲ得ヘシ其授業

時間ハ二時ヨリ少カラサルモノトス

第十三條 小學校若シハ小學教場ヲ設置スルノ實力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ施サントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 學齡兒童ヲ小學校若シハ小學教場ニ入レス又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ施サントスルモノハ戶長ノ認可ヲ經ヘシ

第十五條 學校教場幼稚園書籍館等ニ公立私立ノ別アリ地方稅若シハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立トシ一人若シハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立トス

第十六條 公立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘク其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十七條 私立學校教場幼稚園書籍館等ノ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク其廢止ハ府知事縣令ノ開申スヘシ

但シ公立小學校又ハ小學教場ニ代用スル私立小學校又ハ小學教場ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

ノ認可ヲ經ヘシ

第十八條 町村立私立學校教場幼稚園書籍館等設置變更廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 小學校及ヒ小學教場ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ擬成シ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

中學校其他ノ學校ノ教則ハ文部卿其綱領ヲ頒布スルコトアルヘシ
第二十條 公立學校教場ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村ノ協議ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十一條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校教場ニ於テ補助テ地方稅ニ要スルトキトハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十二條 公立學校教場ノ敷地ハ免稅ニシ

第二十三條 凡ソ學事ニ供スル附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ヘシ

第二十四條 各府縣ハ小學教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第二十五條 教員ハ男女ノ別ナシ年齢十八年以上ニシテ品行端正相當ノ學力アリ文部卿若シハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノタルヘシ

第二十六條 文部卿ハ吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

第二十七條 凡ソ學校ニ於テハ男女教室ヲ同クスルコトヲ得ス

但シ小學校及ヒ小學教場ニ於テハ男女教室ヲ同クスルモ妨ケナシ

第二十八條 生徒試驗ノトキハ父母或ハ後見人等來觀スルコトヲ得ヘシ

第二十九條 町村立學校教場ノ教員ハ戶長ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第三十條 町村立學校教場ノ教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ經

ヘシ

第三十一條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又農學校商業學校職工學校其他ノ

專門學校ヲ設置スヘシ

教育令終

徴兵令

○明治十六年十二月廿八日太政官第四拾八號布告

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年コシテ年滿二十歲ニ至リ

タル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ年滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在

ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖ハ暇時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀

兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

徴兵令條例

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝術職業ニ從ヒ步兵騎兵工兵砲兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願徵兵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齡二十歳ニ滿ヌスト雖ヒ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條 年齡滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食糧被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ユヨリ一個年間陸軍現役ニ服役シム

其技術ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ

減スルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技術ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末々終テスト雖モ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技術復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技術復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技術復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時徵集ニ應スル者ノ内一人及現役兵ノ兄或ハ弟一人
第二項 現役中死没又ハ公勤ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一

人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止ノ者

第十九條 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏(判任以上)及ヒ戸長

第二項 教導職(試補ヲ除ク)

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業証書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

○明治十七年十月十四日太政官第八拾四號達

明治十六年十月十二日第四拾六號布告徵兵令第貳拾壹條ニ依リ徵集猶豫何出ノ節ハ本人履歷并其技術ニ係ル明細書ヲ添フヘシ此旨相違候事

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歲未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齡六十歲以上ノ者ニシテ其

跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷其其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齡六十歲未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ所セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ所セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項(陸海軍生徒ヲ除ク)第十九條第二十一條

ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フ者ヲ府縣兵徵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮營ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適スヘキ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ノ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 充補員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七箇年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二條豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナレハ自身以下戸主トアル者皆同シヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届ケ出ヘシ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ

現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戸主)ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ但書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲グルモノ其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ

兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタルモノ又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直チニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲グル者ニ先タテ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其ノ入營年ノ四月二十日第四十一條ニ掲グルモノハ入營ノ當日ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサルニハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之レヲ定ム

○明治十七年一月三十一日太政官第拾三號達

七軍管疆域左ノ通改定候條此旨相達候事

但軍管疆域ニ關シ左表ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ト心得ヘシ

七軍管疆域表

軍管	鎮	師	營	所	分	營	陸	海
東	東	第	第	東	高	東	要	要
東	東	一	一	京	崎	京	塞	塞
一	東	第	第	佐		倉		
	東	二	二	倉				

第四		第三		第二	
坂		大		仙	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	
八		七		六	

考 備	第七		第六		第五	
			本		廣	
			二十		十	
			小		廣	
			福		丸	

本表中空位ノ部分ハ追テ撰定ス可キモノトス

軍管	第一	第二	第三
管國郡區	武藏十四區 伊豆 武藏本所深川二區 安房南北埼玉四郡 下野 上野 信濃九郡 相摸 甲斐	陸前仙臺區 岩代 陸前十二郡 越後 陸中 陸奥	尾張一區 遠江 信濃東西筑摩 上下伊奈 志摩 紀伊 南北牟婁二郡 三河 駿河 伊勢
	常陸	磐城 佐渡	飛騨 越前

第七	第六	第五	第四
釧路 北見 渡嶋	豐前 肥後 沖繩	阿波 石見 安藝	攝津 山城 近江 東西南北四區 東成住吉二郡 大和 河內 紀伊一區 和泉
後吉 根室	豐後 日向 大隅	備後 周防 備前 長門 伊豫	丹波 伯耆 丹後 美作 淡路 但馬 備前
石狩 日高 千島	筑前 對馬	出雲 隱岐 土佐	薩摩
天鹽 十勝	筑後		

○明治十八年九月二十六日陸軍省甲第四拾貳號達
 正當ノ故ナク徵集ニ應セス若クハ徵集ニ洩レ年齢三十二歳ヲ超過シ發覺ノ者ハ其時々當省
 へ經伺ノ上處分致來候處自今年齡滿四十歳迄ハ經伺ヲ要セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨
 相違候事

○明治十八年十一月十七日陸軍省甲第四拾五號達

毎年徵集スヘキ新兵ハ兵額ノ三分一ヲ徵集可致管ニ候處昨今軍隊編成替及ヒ從來補缺人員
 ノ多寡ニ由リ右三分一ノ人員ニ過不足ヲ生シ候ニ付來ル十九年ヨリ各兵種共兵額ノ三分一
 ナ最下限トシ徵集致候就テハ同年滿期兵ニシテ兵額三分一ノ人員ニ超過スル者ハ此際各聯
 隊分屯大隊并ニ聯隊ヲ爲メ府縣ニ平均シ籤番號ノ高キ者ヨリ除隊歸休セシメ其歸休セシ
 サ、ル隊ハ大、中、小隊 毎ニ府縣ニ平均シ籤番號ノ高キ者ヨリ除隊歸休セシメ其歸休セシ
 メタル人員丈本年補充員ヲ操上ケ定期補缺外入營爲致候條爲心得此旨相違候事

○附錄

◎第一節 徵兵事務條例

○明治十七年七月十九日太政官第拾八號布達

徵兵事務條例別冊ノ通相定ム
 右布達候事

〔別冊〕

徵兵事務條例目錄

第一章	徵兵事務官及其職掌	第二章	徵兵検査所及ヒ徵兵署
第三章	各自届出	第四章	下調
第五章	徵員配當	第六章	検査準備
第七章	検査	第八章	抽籤準備
第九章	抽籤	第十章	簿冊表面調製
第十一章	現役兵編入順序	第十二章	新兵入營前ノ扱
第十三章	歸休歸省	第十四章	補充員及ヒ豫備徵員
第十五章	一年志願兵	第十六章	臨時徵兵事務
第十七章	雜則	第十八章	附則

第一章 徵兵事務官及ヒ其職掌

第一條 徵兵事務官ハ左ノ如シ

- 一 鎮臺後備軍司令官
- 二 營所後備軍司令官
- 三 府縣駐在官
- 四 郡區駐在官
- 五 醫官
- 六 府知事縣令
- 七 府縣兵事課長
- 八 郡區長

第二條 鎮臺後備軍司令官ハ其軍管内徵兵ノ事ヲ掌ル

第三條 營所後備軍司令官ハ其師管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備軍司令官共職掌ヲ兼攝スルモノトス

第四條 府縣駐在官ハ其府縣内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際醫官及ヒ府縣兵事課長ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ壯丁検査ノ事ヲ掌ル

第五條 郡區駐在官ハ其郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第六條 醫官ハ毎年新兵徵集ノ際一等軍醫以下軍醫試補以上ヲ以テ之ニ充ツ

一等軍醫ハ後備軍司令官ニ從ヒ府縣徵兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ検査スルコトヲ掌ル

二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ同シ

第七條 毎年新兵徵集ノ際前諸條官員ノ外海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參セシムルコトアル可シ

第八條 府知事縣令ハ管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣兵署ニ於テ後備軍司令官ト商議シ徵集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

第九條 府縣兵事課長ハ其府縣内徵兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徵集ノ際府縣駐在官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ検査ノ事務ヲ補助ス

第十條 郡區長ハ郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調査ノ事ヲ掌ル

第十一條 毎年新兵徵集ノ際師管徵兵區ノ諸記録ハ後備軍司令部書記ヲシテ之ヲ掌ラシム
 検査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ヲシテ之ヲ掌ラシメ身體検査ノ記録ハ地方醫員ヲシテ之ヲ掌
 ラシメ又身體検査ノ補助ヲ爲サシムルコトアル可シ
 醫員筆生ハ府知事縣令ノ撰ヲ以テ命スルモノトス

第十二條 徵集猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其事由
 ナ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由ス可シ

第二章 徵兵検査所及ヒ徵兵署

第十三條 壯丁ノ検査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ集合便宜ノ地
 ノ撰ニ若干ノ徵兵検査所ヲ設ク可シ

第十四條 各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先チ府縣應所在
 ノ地又ハ管内便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ
 毎師管一ノ徵兵署ヲ設ク可シ

第十五條 徵兵検査所及ヒ徵兵署ハ毎年新兵徵集中開クモノニシテ該事務竣レハ之ヲ閉ツ

可シ

第三章 各自届出

第十六條 徵兵令第三十四條ノ届書ハ第一書式第三十五條ノ届書ハ第二書式第三十六條ノ
 届書ハ第三書式ニ據リ之ヲ認メ戸長ニ差出ス可シ但第三十五條ノ届書ニハ左ノ書類ヲ添
 フ可シ

- 一 徵兵令第七條ニ當ル者ハ刑名宣告書寫
- 二 徵兵令第十七條第一項第二項ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書第三項第五項ニ當ル
 者ハ第四書式ノ事由書及ヒ戸籍寫第四項并ニ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル癩疾不具等
 ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル爲メ徵集猶豫ニ關スル者ハ事由ヲ記シタル詳細
 書及ヒ第五書式ノ醫師診斷書并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上ノ保證書及ヒ
 戸籍寫並ニ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫
- 三 徵兵令第十八條第一項ニ當ル者ハ辭令書寫第二項ニ當ル者ハ卒業證書寫及ヒ辭令書
 寫第三項第四項ニ當ル者ハ學校長若クハ所屬長ノ證明書第七項ニ當ル者ハ地名校名

及ヒ修業ノ學科并ニ入校ノ年月日等記載ノ書及ヒ公使又ハ領事ノ證明書第八項ニ當ル者ハ檢察官ノ證明書第九項ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

四 徵兵令第十九條ニ當ル者ハ學科并ニ等級ヲ記シタル學校長又ハ所屬長ノ證明書

五 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ決裁書ノ寫

第十七條 各自届出ヲ爲スニ當リ戶主旅行又ハ外國寄留等ニテ届出ヲ爲ス能ハサルトキハ本人又ハ親族ノ者ヨリ届出可シ

第十八條 各自届出ヲ終ルノ後抽籤ノ前他ノ府縣ニ轉籍スル者ハ三日以内ニ舊住地新住地雙方ノ戶長ニ届出可シ

第四章 下調

第十九條 毎年九月一日以前戶長ハ各自届出ヲ爲ス可キ者ヲシテ徵兵令第三十四條第三十
五條第三十六條ノ届出ヲ怠ラシメサル様注意ス可シ

第二十條 戶長届書ヲ領收セハ其町村ノ戶籍ニ照シ届渡ノ者ナキヤ否ヲ調査シ國民兵入籍者ト徵兵相當者トチ分チ徵兵相當者ノ各自姓名ノ頭ニ記載シタル箇條并ニ事由書或ハ證

書等相違ナキヤ否ヲ審査シ其届書ニ署名押印シ更ニ徵兵令第七條第十七條第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者ト檢査ヲ受ク可キ者トチ區別シ國民兵入籍者ノ届書ト共ニ書類目錄ヲ添へ毎年九月二十五日迄ニ郡區長ニ差出ス可シ但徵兵令第三十五條但書ニ當ル者ハ戶長之ヲ調査シ其族職業氏名住所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ

第二十一條 戶長ハ檢査ヲ受ク可キ者ノ戶籍ニ基キ人別表第六ニ葉ヲ製シ各自届書ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ但人別表用紙ハ各自届出ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ下付ス可シ

第二十二條 各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルトキハ戶長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區長ニ差出ス可シ

第二十三條 郡區長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ點檢シ然ル後壯丁名簿第七及ヒ壯丁異動名簿第八ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自届書人別表其他諸書類ト共ニ十月十五日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第二十四條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿并ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内ノ壯

丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ又ハ別表備考者區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ郡區長ニ返付ス可シ

第二十五條 郡區長ハ郡區駐在官ヨリ返付スル所ノ名簿ニ各自屆書人別表其他諸書類ヲ添へ十月二十五日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十六條 壯丁名簿調製ノ際郡區長ハ人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ訂正加書ス可シ

第二十七條 寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又ハ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セサル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿ニ作ル可シ

第二十八條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條ニ據リ身上ノ異動屆書ヲ戶長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正ス可シ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣廳又ハ徵兵署或ハ檢査所ニ送ル可シ但徵兵令第二十四條ノ各自屆出後身上異動ノ屆書ハ三日以内ニ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十九條 他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動屆書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新住地府縣廳ニ通牒ス可シ

第三十條 郡區長ハ壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者ノ屆書ニ據リ國民兵名簿第九ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自屆書ト共ニ十月三十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第三十一條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區内ノ國民兵入籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ各自屆書ト共ニ十一月十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第五章 徵兵配當

第三十二條 毎年徵集ス可キ陸軍新兵ノ員數ハ陸軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示ス可シ

第三十三條 鎮臺司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ス所ノ人員ヲ率トシ軍管徵集人員配當表第十ヲ作り之ヲ陸軍省ニ開申シ又管內府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ